日本の交響作品展

昭和8年～18年

新交響楽団

1976

「コーヒー 飲む」



やさしくないい

「うん クリープをたっぷりいれてくれよ」



「アンコール
「ENCORE!」

「ぼくはブラック」



「ブランデーいれようかな わたし」



「コーヒー 片手に音楽か」

「レコードもいいけどね…」

「たまには 生で聴きたいね」

「だけど音楽会ってのは
どうもかた苦しくなっちゃって」

「音楽は音を楽しむんだがらな」

「自由にくつろいだ
雰囲気で楽しめば
いいんだよ」

「気軽にアンコール
なんて声をかけたいよね」

「異議なシ!」



「のんびり
音楽会を楽しんだあとは
たっぷり
クリープを入れたコーヒーを
ゆっくり
味わう————これこそ
まさに「ENCORE!」という
感じだ————」

森永乳業

クリープを入れない
コーヒーなんて……

クリープ。



行動する男の香り

資生堂

ブラバス

オーデコロン——————1,200円
オーデコロン(バスキー)————1,200円

知っていても、知らなくても、
日通のルックなら楽しい。

運輸大臣登録一般第19号
日通航空 日本通運東京航空支店
お近くの窓口までお問い合せ下さい
東京都港区新橋1−5−2 〒105 ☎571−8481(代)

行く先もさまざま、楽しみもいろいろ、日通のルック。
すべてセットしてありますから、外国旅行
のわずらわしさ、不安がありません。
世界の国へ〈こんにちわ〉——
添乗員が親切に
ご案内いたします。



ルックのコースは多彩です。

●ローロッパルート14(マドリードコース)	14日間	469,000円より	●ルックメイト ハワイ	6日間	222,500円より
●ヨーロッパルート20	20日間	632,000円より	●バリ島とシンガポール、バンコク	7日間	336,000円より
●ディズニーランドとハワイ	6日間	264,000円より	●タヒチとボラボラ島	8日間	427,000円

新交響楽団創立20周年記念

第73・74回演奏会

日本の交響作品展

昭和 8年 ～ 18年

指揮：芥川也寸志

9月3日(金)　東京文化会館大ホール 7時

1. 平尾 貴四男
1907～1953

古代讃歌　1935

作曲者所蔵版

2. 箕作 秋吉
1895～1971

小交響曲　二長調　1937

I アレグロ

II アリア

III サラバンド・アラ・ジアポンセ

IV フーガ

ユニバーサル版

3. 大木 正夫
1901～1971

組曲「五つのお伽噺」　1933

I 夢の中のお噺

II 奇妙なお噺

III 可愛いお噺

IV 愉快なお噺

V そしてもう一つのお噺

国際文化振興会版

4. 尾高 尚忠
1911～1951

日本組曲　1937

I 朝に

II 遊ぶ子供達

III 子守歌

IV お祭

作曲者所蔵版

5. 早坂 文雄
1914～1955

古代の舞曲　1939

国際文化振興会版

Sep. 3rd

TOKYO BUNKAKAIKAN P.M.7:00

1. KISHIO HIRAO
1907～1953

Cantilene Antique 1935

Original Score

2. SHUKICHI MITSUKURI
1895～1971

Symphonietta in D major 1937

I Allegro

II Aria

III Sarabanda alla giapponese

IV Fuga

Universal Edition

3. MASAO OHKI
1901～1971

Suite; Five Fairy Tales 1933

I Bed time Story

II Strange Story

III Lovely Story

IV Funny Story

V And One More Story

Kokusai Bunka Shinkokai Score

4. HISATADA OTAKA
1911～1951

Japanese Suite 1937

I In the morning

II Children at play

III Cradle song

IV Festival

Original Score

5. FUMIO HAYASAKA
1914～1955

Ancient Dance 1939

Kokusai Bunka Shinkokai Score

10月11日(月)　東京文化会館大ホール　2時

6. 清瀬保二
1900～

日本祭礼舞曲　1940

I モデラート
II レント トランクイロ
III アレグロ

作曲者所蔵版

7. 安部幸明
1911～

小組曲　1935

I エントラータ
II インターメッツォ
III スケルツォ
IV マルチア

作曲者所蔵版

8. 高田三郎
1913～

山形民謡によるバラード　1941

ファンタジー－フーガ

音楽之友社版

9. 諸井三郎
1903～

小交響曲　変ロ調　1943

I アンダンテ グラチオーソ
II アンダンティノ クワジ アレグレット
III レント アファービレ

JML版

10. 伊福部昭
1914～

交響譚詩　1943

I アレグロ カプリチオーソ
II アンダンテ ラプソディコ

音楽之友社版

Oct. 11th　　TOKYO BUNKAKAIKAN P.M.2:00

6. YASUZI KIYOSE
1900～

Japanese Festival Dances 1940

I Moderato

II Lento tranquillo

III Allegro

Original Score

7. KOMEI ABE
1911～

Kleine Suite 1935

I Entrata'

II Intermezzo

III Scherzo

IV Marcia

Original Score

8. SABURO TAKADA
1913～

Ballade Based on Yamagata Folk Song 1941

Fantasy－Fugue

Ongaku no tomo Edition

9. SABURO MOROI
1903～

Sinfonietta in B 1943

I Allegro grazioso

II Andantino quasi Allegretto

III Lento affabile

JML Edition

10. AKIRA IFUKUBE
1914～

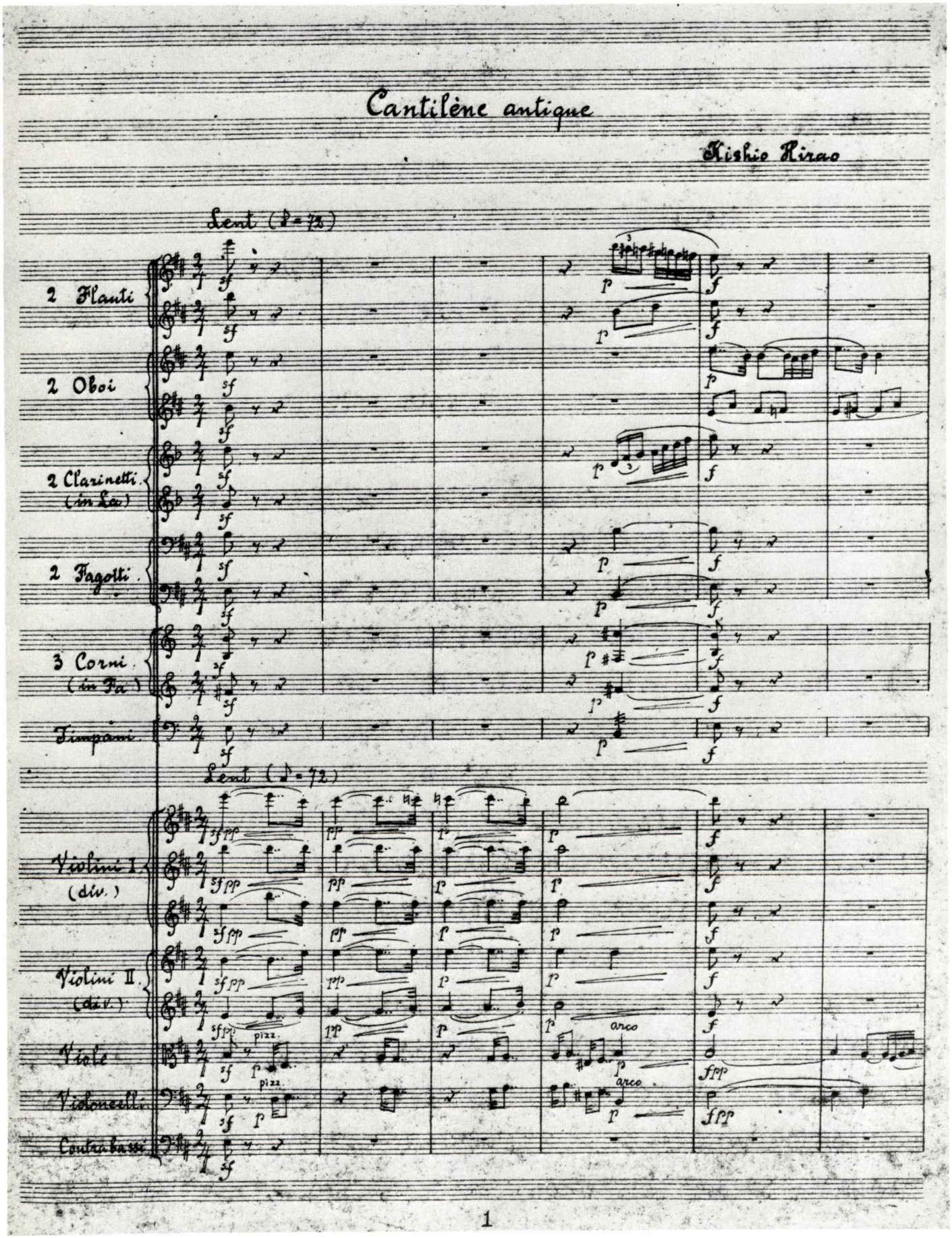
Ballata Sinphonica 1943

I Allegro capriccioso

II Andante rapsodico

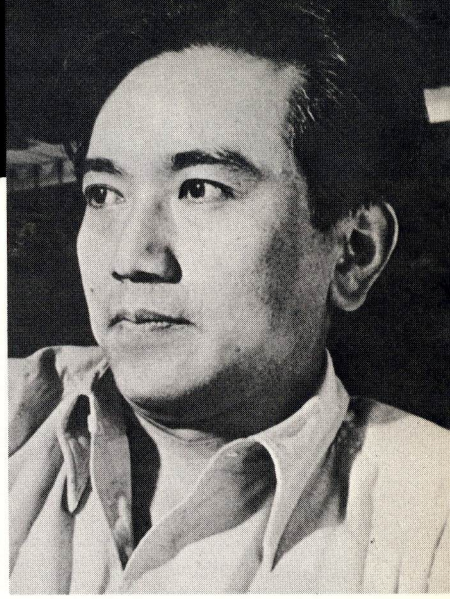
Ongaku no tomo Edition

1. 平尾貴四男



平尾妙子氏提供

古代讃歌　1935



貝増善次郎氏撮影

解説　富樫　康

1907年（明治40）東京日本橋生れ。レート化粧品社長の父は彼を医者にするべく、慶応幼稚舎から普通部をへて医学部に入れたが、予科2年の頃作曲を志望した所、反対されて独文科に転科、1930年に卒業した。音楽は17才のとき以来、ヴァイオリン、ピアノ、音楽理論を習ったが、大学卒後、上野出身のピアニストと結婚して渡仏。パリのスコラ・カントルムに入学。和声、対伝法、フーガ、作曲（以上はトレ・ビアンで卒業）指揮法及びフルートを習った。就学中ダンディの死に遭い、校内抗争が起って、彼はセザール・フランク音楽学校に走った。在学中に楽劇「隅田川」を作曲。1935年（昭10）帰国、日本現代作曲家連盟に入会して発表した「弦楽四重奏曲」が第1回室内楽賞をうけた。1937年(昭12)第1回新響邦人作曲コンクールに「古代旋法による緩徐調」(後に「古代讃歌」と改題）が入賞。これはその後もしばしば再演。翌年の第2回同コンクールには「隅田川」が入賞した。同年NHKより国民詩曲の委嘱をうけて「機織唄による変奏曲」を作曲して放送初演。1938年（昭13）作の交響詩曲「砧」は42年に日本交響楽団により初演され、これは1972年に日本ビクターによりレコード化された。1941年作の「フルート・ソナチネ」は当時大倉喜七郎男爵が開発した尺八とフルートの中間的な楽器、オークラロの為に作曲されたもので、戦前の彼の代表作ともいえる佳品である。

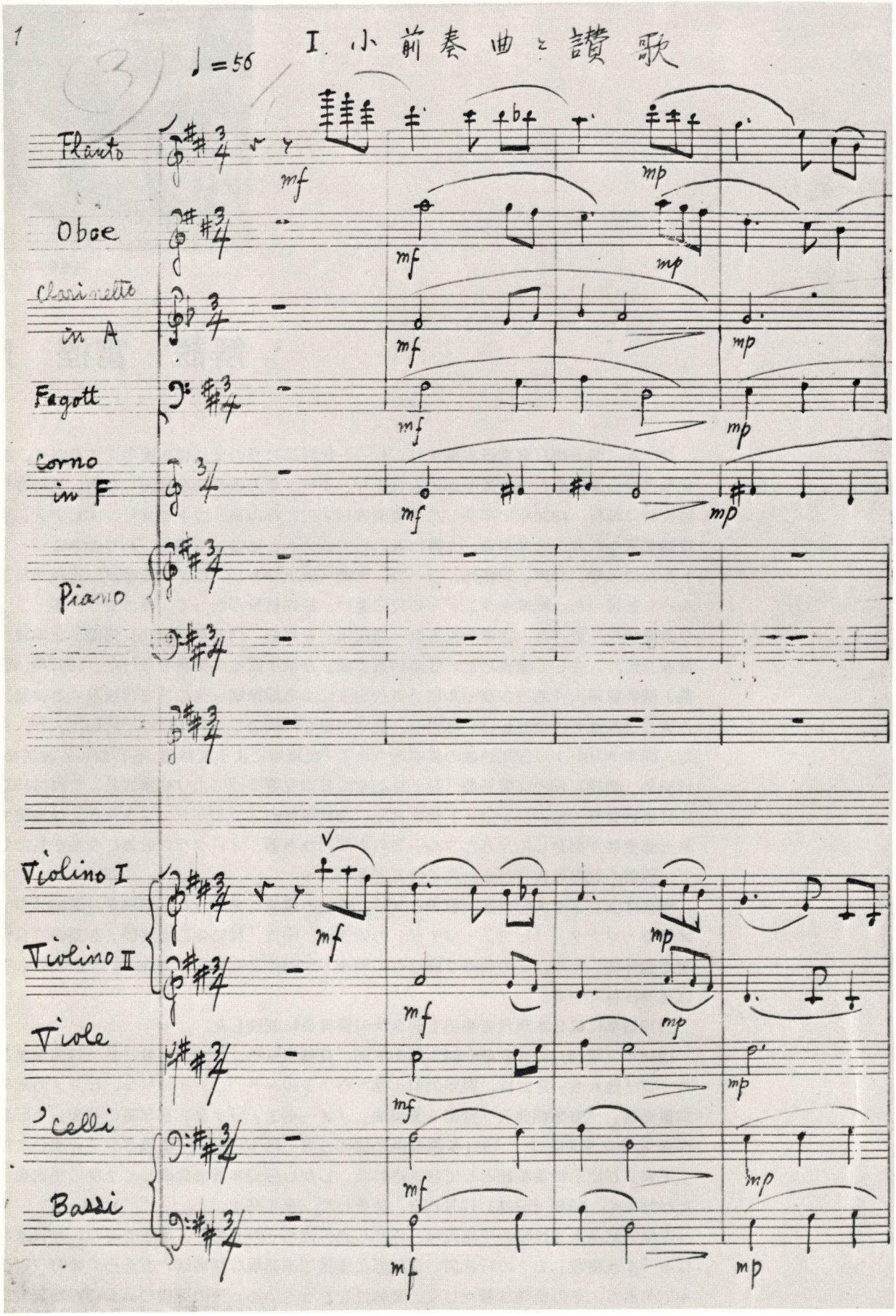
戦後は国立音楽大学作曲科教授となり、後進の指導にあたった。1948年（昭23)「ヴァイオリン・ソナタ」、「ピアノ・ソナタ」の新作と、旧作「和奈佐乙女物語」を集めて自作品演奏会を催したが、この新作2曲は彼の戦後の代表作ともいえる力作で、その後もしばしば再演されている。

翌1949年には日本現代音楽協会第3代の委員長に就任した。

1948年（昭23）には安部幸明、高田三郎、貴島清彦ら、抒情派と目される作曲家達とグループ「他人会」を結成、翌年の第1回から「フルート、ヴァイオリン、ピアノのための三重奏曲」、「奇想組曲」、「管楽5重奏曲」、「オーボエ・ソナタ」を年毎に発表して旺盛な作曲活動を展開した。1951年講和条約調印の際にはNHKより委嘱されて作曲した序曲「平和」が記念特集番組として放送された。しかし翌52年胃癌発病して2度の手術をうけたが効なく、53年（昭28）12月15日、他界した。享年45才。

温厚で気品ある性格の平尾氏は、作品も彼の性格そのもので、端正であり、今日演奏される「古代讃歌」もその行き届いた技術と優雅で王朝風な情緒は、おそらく彼のプロフィルであろう。その情緒は若々しく、柔軟性をもっている。彼の死後も、その性格を慕う人人の温い援助によって数回の回顧的な演奏会が催された。

2. 箕作秋吉



遠山音楽図書提供

小交響曲 ニ長調　1937



小原敬司氏撮影

1895年（明治28）東京生れ。父元八は東大教授で在欧10年の間にオペラを好んできいた位の人である。秋吉はその長男で本郷誠之小学校、東京高師附属中学、一高をへて東大工学部応用化学科を1921年に卒業。同年結婚して渡独。ベルリンのカイザー・ウィルヘルム研究所に入り物理化学を専攻すると同時にゲオルク・シュマン教授に和声を習った。1925年帰国して海軍技術研究所に勤め、傍ら池譲に対位法を、池内友次郎に対位法とフーガを、ヨゼフ・ケーニッヒに管弦楽法を、ローゼンストックに指揮を習った。

1930年（昭５）主唱して新興作曲家連盟を創設その発展に尽力した。1934年第３回音楽コンクールに「小交響曲」が２位入賞、翌年チェレプニン・エディションにより出版、更に1939年にはワインガルトナー賞にも優等入賞した。同年理学博士の学位授与。翌年管弦楽序曲「大地を歩む」が紀元2600年奉祝芸能祭に上演された。

戦後1945年国際現代音楽協会日本支部の再建を目標とする日本現代音楽協会を設立、その委員長となった。1950年室内管弦楽のための音詩「芭蕉紀行集」が日本人としては戦後初の国際現代音楽祭に入選し、ブルュッセルで初演された。1954年には「ピアノ協奏曲」が尾高賞佳作入選。同年国際音楽評議会日本委員会書記長となった。

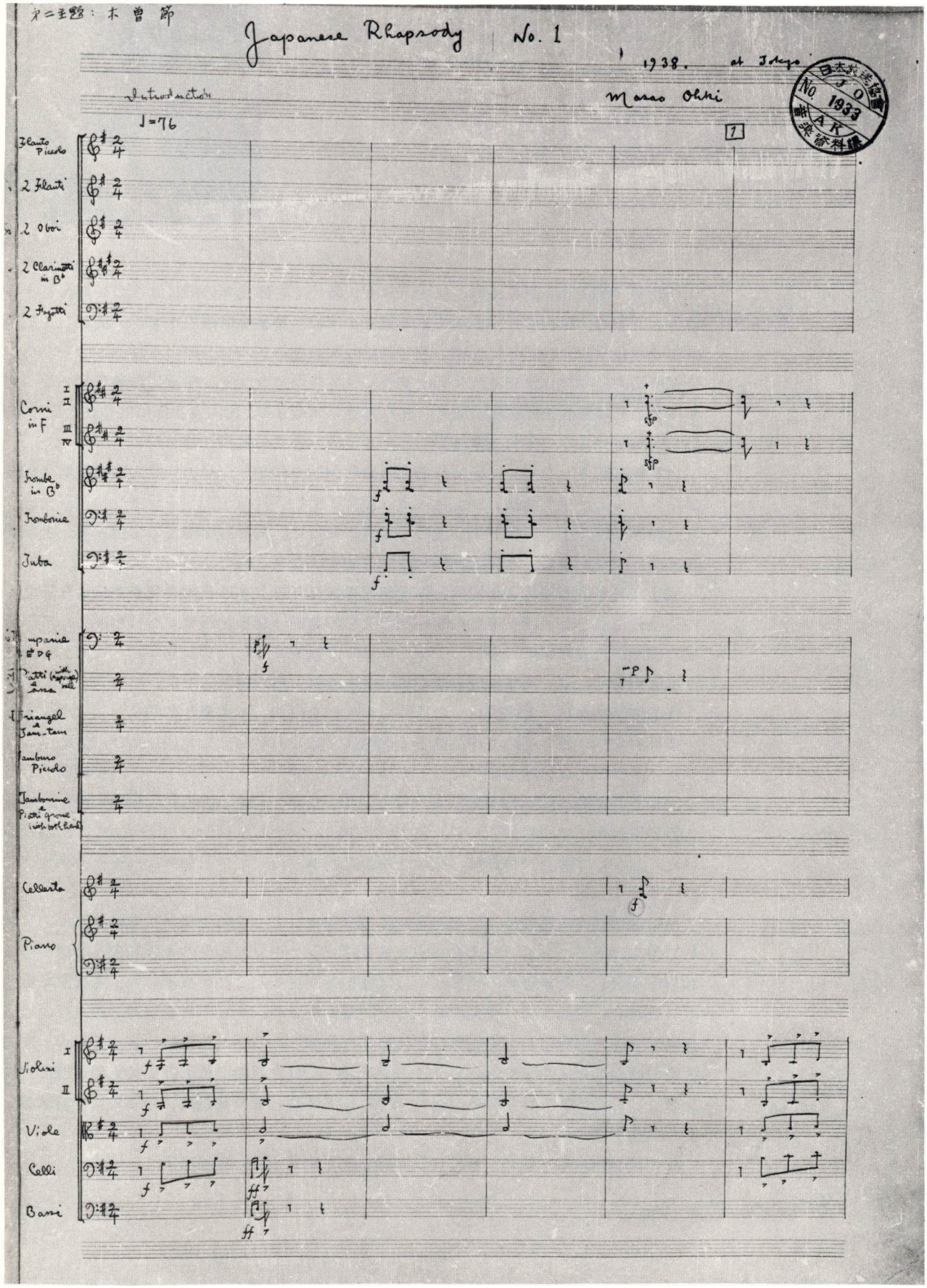
作品は管弦楽11、室内楽11、のほかに多くの合唱曲、歌曲集がある。

彼は31才のときに初めて作品第１の管弦楽「二つの舞曲」を発表したが、被めはシューベルトやブラームス(「亡き子に」)、或はショパンやチャイコフスキー(「浪漫組曲」)、モーツアルト(「古典組曲」)の影響がみられていた。だがその後、近代的な転調や東洋的な旋律への和声付を「二つの詩」Ⅰ、Ⅱ、において試み、ドゥビュッシーやラヴェルの影響がみられた。しかし「閨秀抒情詩集」及び「芭蕉紀行集」にいたって和声が一段と体系化され、個性的となった。

彼は西洋和声体系のほかに東洋和声体系が存在して、その両者が交通の発達により邂逅して新しいドゥビュッシーの和音や全音音階、シェーンベルクの４度和音、ミローの４度和音を基礎とした半音差の複調といった独創性が生じたことを長年研究して論文を書き、それを綜合した論文集「音楽の時」を1949年に著した。そして音響学的な数式による証明が東洋的体系のみによっても作曲されることを示したのが「芭蕉紀行集」である。室内管弦楽のほかに同名の歌曲集1931～２があるが、これは原曲で芭蕉の俳句十句を旋律付けした歌で、これもすぐれた作品である。またピアノ曲「夜の狂想曲」1935も日本的情感を含んだ名曲である。

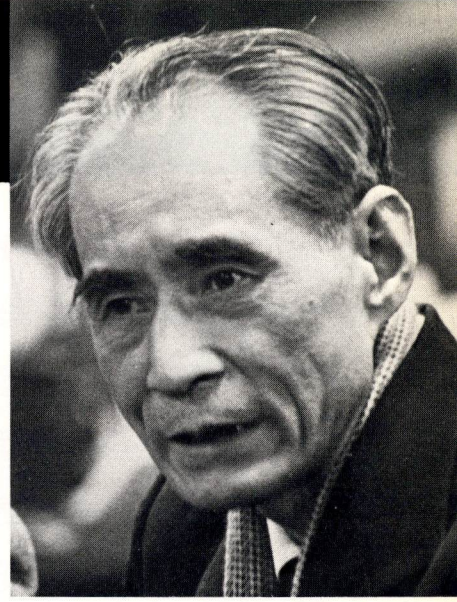
箕作氏は1971年（昭46）５月10日に狭心症で他界した。享年75才。

3. 大木正夫



遠山音楽図書提供

組曲「五つのお伽噺」　1933
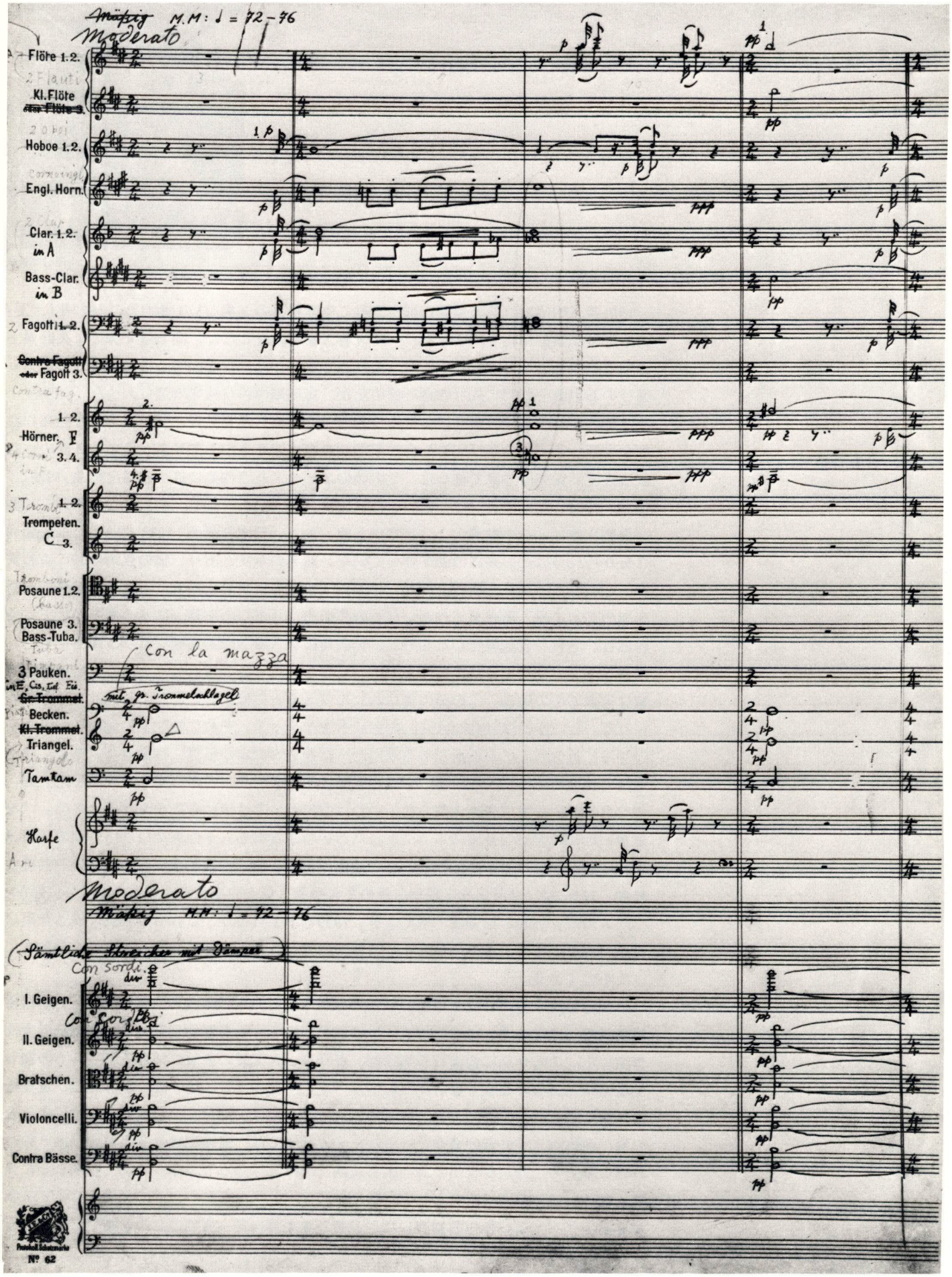


小原敬司氏提影

1901年（明治34）静岡県磐田郡中泉町で中学校長の3男として生れた。1922年(大正11)大阪高等工業応用化学科を卒業、一時丸善工業に入社したが、間もなく辞めて長野県上田高女に教鞭をとった。しかしこれも長続きせず、作曲家を志向する彼は上京してアメリカ帰りの石川義一の門に入り作曲を修めたが、短期間ののち独学の道に入った。1930年小松平五郎の主宰する国民音楽協会により初めて交響楽作品を発表、翌年は自作管弦楽作品発表会を行った。1933年（昭8）自ら黎明作曲家同盟を主宰して子弟とともに4回の作品発表会を主に管弦楽作品で催した。その頃のオーケストラ作品には「工場交響曲」1932、「信濃路」1933、組曲「五つのお話」1934、「田園詩曲」1934、「鉱坑」1936、「夜の思想」1937、（発表当時は「夜の瞑想」）、「日本小品集」1937、「日本狂詩曲」1938といった三管編成で7分から13分ほどの長さの曲を作っていた。題名の示すとおり、彼の生活体験による変遷が、その音楽作品から覗うことができる。「鉱坑」は実際に銅坑に潜入して坑夫たちが命を縮めてまで働く姿を見て作曲したものである。「五つのお話」は始め同名のピアノ曲を作曲し、それを管弦楽化したもので、発表時には「五つのお伽噺」という題名だった。文字通り5つの部分に分れた童話風のテーマをもった小品を組合せたもので、特に最初の楽章は可憐で心に残る。この頃の彼はムソルグスキーに傾倒したと思われるふしが随所にみられる。というのは「展覧会の絵」の形式とアイディア、それに管弦楽に編曲したラヴェルの手法に近似している個所があるからだ。だがその内容からは、作曲者が人間愛に満ちた性格の持主であることを、誰しも納得することができる。この作品と「夜の思想」は、ワインガルトナー賞に優等入賞した。いわば彼にとっては大いなる出世作といえる。「夜の思想」は禅の思想を音楽にしようとしたという説がある。そのあたりから作曲者は日本的思考に思いをはせるようになり、交響組曲「羽衣」や「古典彫像に題する六つの前奏曲と終曲」1948 或いは万葉集に題材を求めた合唱曲「勇士の名を振うを慕う歌並びに短歌」、「防人の歌」1940、独唱曲「挽歌二首」1939等が生れるが、これらは雅楽の旋法を用いた時期の作品である。古典彫像は彼が奈良の国宝とされている仏像をみた時の感動を音に綴ったものである。

しかし彼は戦後再び社会主義的思想にもどり、1953年（昭28）には丸木砂土、赤松俊子両画伯の「原爆の図」に感動して「ヒロシマ」に寄する交響的幻想という約50分の大曲を作曲した。この作品に含まれる悲愴感、哀れみ、人間愛の表現は格別である。その後も労働者音楽協議会の委嘱で書いたカンタータ「人間をかえせ」第一部、第二部も、原子爆弾を被爆した峠三吉の詩による大合唱曲で、この合唱はアマチュア合唱団の参加による合唱の喜びを体験する好個の音楽となった。その意味では、重複男声合唱の為の詩曲「わだつみのこえ」や、朗読と合唱の為の叙事詩曲「あの人は帰ってこなかった」も成功した作品群である。1970年には南北ベトナム戦争中に北ベトナムを訪れ、その記念として「交響曲第6番・ベトナム」を作曲初演したが、翌71年4月18日、胃癌のため永眠した。氏の御夫人も作曲家である。

4. 尾高尚忠



尾高淳忠氏提供

日本組曲　1937



小原敬司氏撮影

1911年（明治44）東京で銀行家を父とした家庭に生れた。祖父は渋沢栄一。亡兄朝雄は東大法律学教授。邦雄は東大社会学教授。鮮之助は印度美術研究家。2人の子息は指揮者、作曲家として活躍中である。府中五中から成城高校文科に入学したが、半年にしてウィーンに行き、当地でピアノと音楽理論を学び、一旦帰国、1934年（昭9）結婚してピアニストの節子夫人と共に再渡欧。ウィーン国立音楽学校で作曲、指揮（ワインガルトナーに）、管弦楽法を学んだ。その間マスタークラス卒業作品として作曲した「日本組曲」がワインガルトナー賞に優等入賞した。欧州で指揮活動の後1940年帰国、翌年新交響楽団を指揮して自作交響詩「芦屋乙女」、「みだれ」を発表、翌年は自作室内楽作品演奏会を催してデビューした。たまたま指揮者に欠乏していた新響に迎えられて、死期に至る十年間専属指揮者をつとめた。

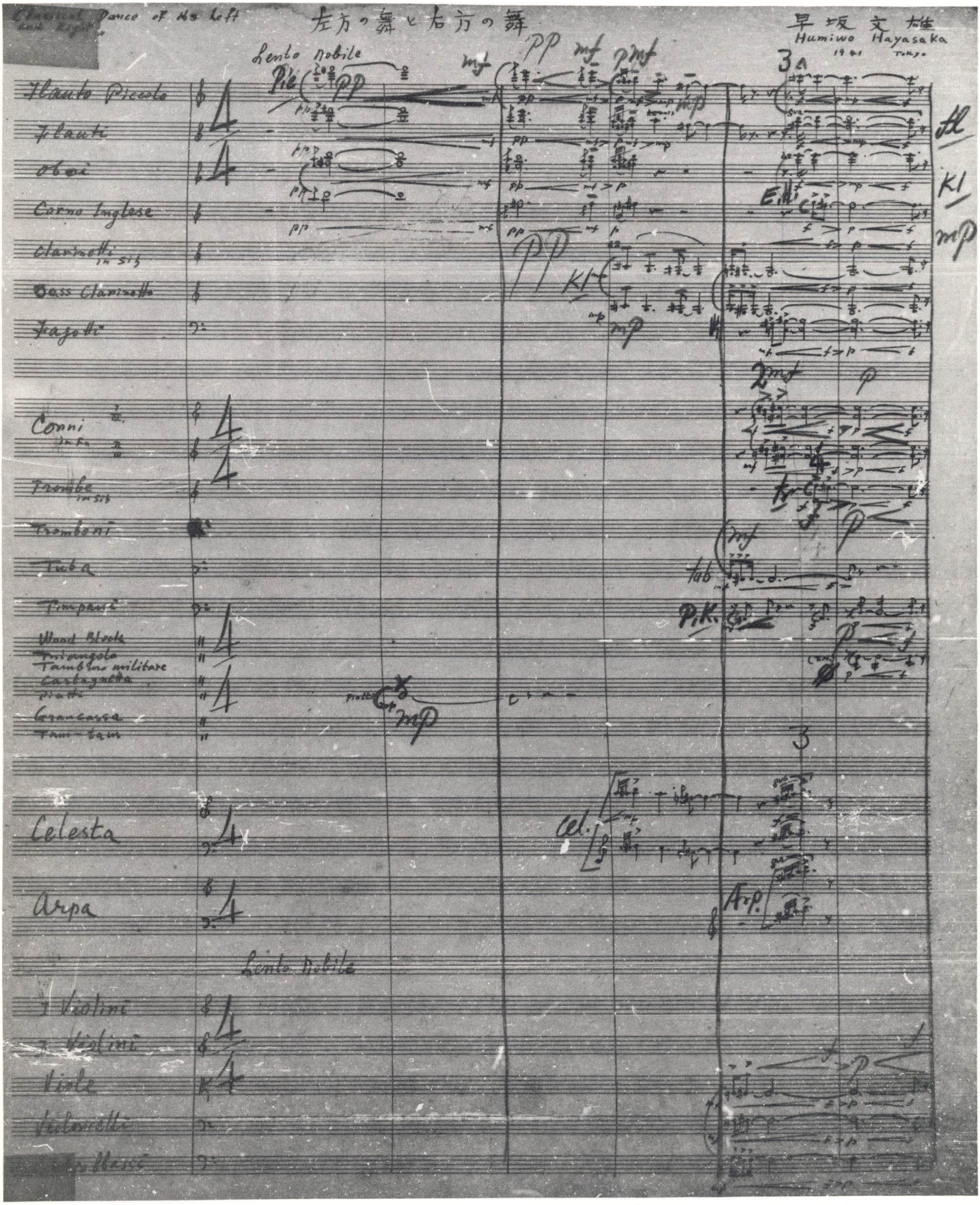
一楽章形式の「第1交響曲」は1948年（昭23）平和の鐘楼建立会募集「平和のために世界に贈る交響曲」に1位入選、「フルート協奏曲」は同年放送用に書かれたが、病をえて最後の1ページを残して1951年（昭26）2月16日出血性上部灰白質脳炎で他界した。管弦楽はその他の作品を加えて19曲あり、室内楽は13曲、独唱曲は2作品を遺した。

なお昭和25年度における彼の交響楽運動と指揮作曲に関する功績に対し、翌年文部大臣賞が授与されたが、その賞金を文化事業に使用したい節子夫人の希望をいれて、NHK交響楽団では、昭和27年から賞金をかけた「尾高賞」を設立した。

彼は指揮者としての知名度の方が高かったが、本心は指揮よりも作曲を志していたのである。また彼はウィーンに長く学んだ人だけあって、ヨーロッパ的素養の中でも、特にウィーンの気質を身につけた日本の作曲家兼指揮者は、彼をおいて他にいなかった。

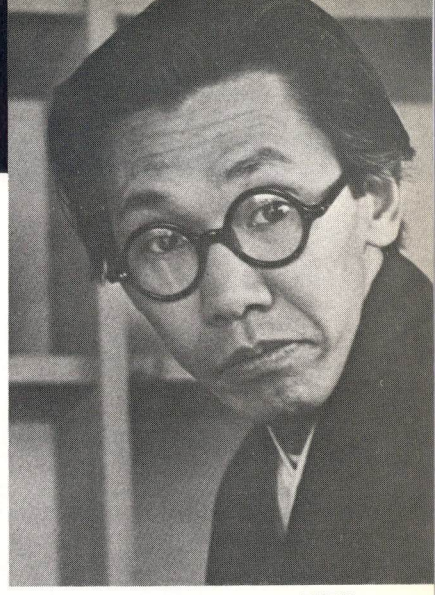
1943年（昭18）に作曲した「管弦楽とピアノのためのラプソディ」について彼は「軽くて粋なものと思ってとりかかったのだが、酒落た作品というものが、いかに難しく老練の腕を要するかを思い知った。曲の形式は確かに随筆風、即興的で、気紛れであり、即ちラプソディである。しかし次々に変化してゆく断片的な曲想も結局は冒頭と結尾にその全体の姿を現す一つの旋律から、その特徴的な動機を採りだして一種の変奏曲のように、部分動機発展の技術を用いてみたもので、未熟にはちがいないが、断片的の如くして流れた一貫性をもつ所が、まあ自慢というわけである」とのべている。ピアノ曲「三つのポートレ」は3人の作曲者ショパン、ブラームス、ドビュッシーをとりあげた即興風のなかなか洗練された作品である。「ソナチネ」は作曲者が自信をもって夫人に捧げた作品で、彼がドイツ的ロマン主義の殻の中にのみ閉じ籠ることを好まず、各種の趣好を持つ作曲家であることを示している。ピアノ曲「日本組曲」は留学中の作品とはいえ、彼の作品中最も精彩をもつ逸品ともいえるだろう。ここには日本的旋律やリズムが用いられてはいるが、それが古色蒼然たる欧州の伝統美の衣裳の中に包まれた形で処理されている。今日演奏されるのは、このピアノ曲をオーケストレーションしたものである。

5. 早坂文雄



遠山音楽図書提供

古代の舞曲　1939



日本ビクター㈱提供

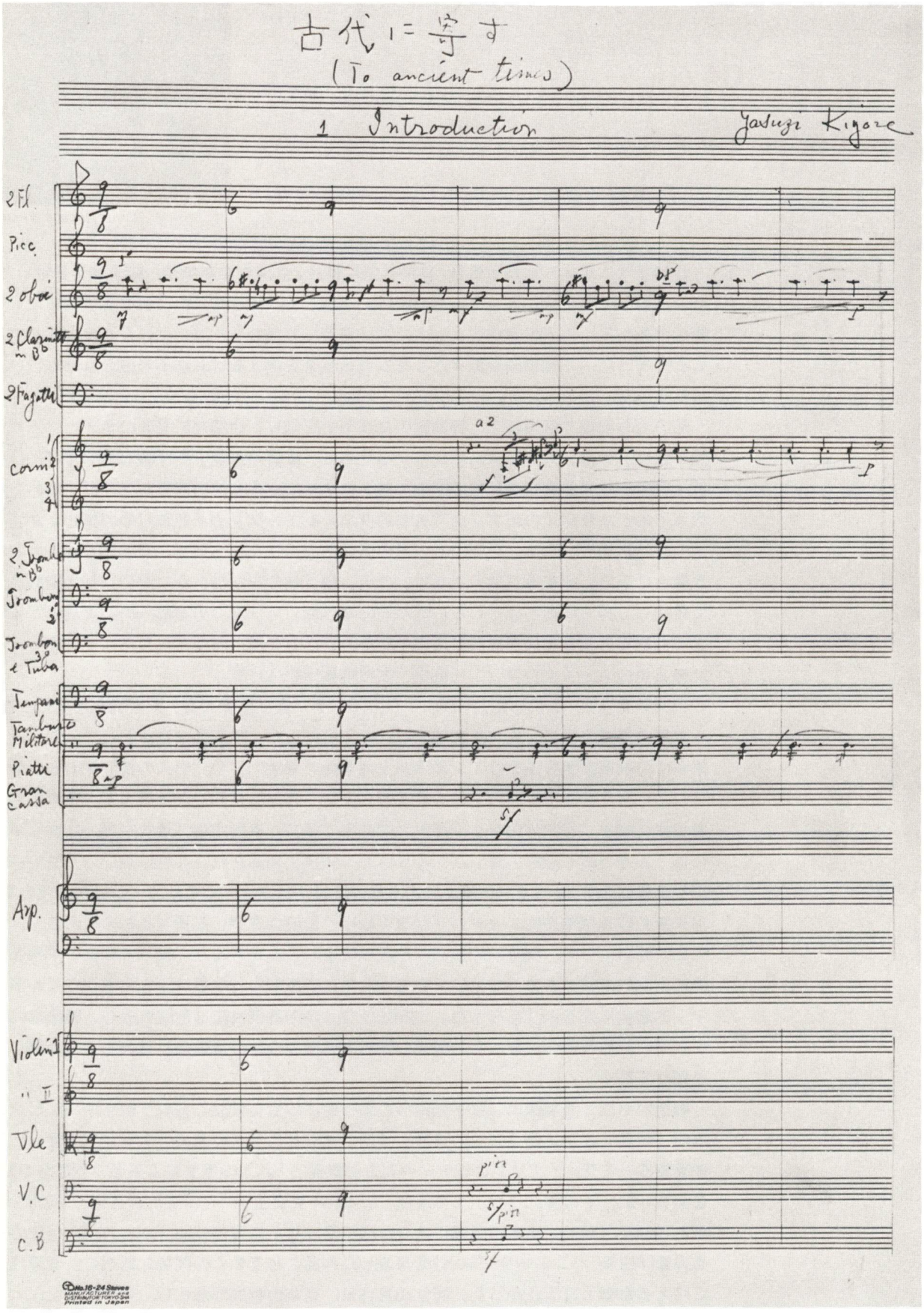
1914年（大正３）仙台市生れ。幼時札幌に移住。北海中学卒業後、音楽家を希望したが、経済力もなく実社会に入った。その頃既に母は亡く、父は三人の子供を置き去りにして大阪へ消えた為、二人の弟妹をかかえた彼は貧苦に見舞われ、時には三日も水を飲んで暮すこともあった。丁稚奉公を転々としながらも音楽を志す彼は凡ゆる辛酸をなめなければならなかった。

そのうち同地で伊福部昭と評論家の三浦淳史を知り、伊福部の兄その他でピアノ六重奏団を作り、仮想アカデミズムに反抗するために「新音楽連盟」を組織し1934年(昭９)秋に第１回国際現代音楽祭を札幌で開催、曲目はすべて日本初演の西欧現代作品で埋めた。早坂はそのときサティのピアノ曲「三つのグノッシエンヌ」や「気取リやの気むずかしやの三つの特異的ヴァルス」を弾いた。その頃数曲の習作を作ったが、翌35年当地のカトリック教会に入り、オルガニストになり、ラテン語、神学を学び、かつグレゴリオ聖詠を熱心に研究して神父になろうとした。だがその時作曲した「二つの讃歌への前奏曲」が日本放送協会懸賞募集日本的祭典曲に入賞したため、これを機に作曲家になるべく決意した。また来日中のＡ・チェレプニンに会い、多くの啓示をうけた。

1938年管弦楽「古代の舞曲」がワインガルトナー賞に優等入賞。だが胸部疾患にかかリ、一年間の療養中結婚。翌年東宝映画に迎えられて上京、映画音楽監督として入社した。以来多くの映画音楽を手がけて、黒沢明と共同の「羅生門」や「七人の侍」その他多数を制作した。また1939年日本放送協会募集管弦楽に「序曲ニ長調」が首席入賞。翌年独立作曲家協会に参加、ピアノ曲を２回発表。1942年（昭17）東響主催「現代日本の作曲」演奏会には「左方の舞と右方の舞」がグルリットの指揮で初演され、これは後にローゼンストックや上田仁のタクトにより再演された。(最近は日本ビクターでもレコード化)「古代の舞曲」以来彼の作品は雅楽的ニュアンスが濃くなリ、同時に洗練、高貴なるものに傾き、具体的民謡的素材よりも、抽象的幻想的な形象化に進むことを好んだ。従って同僚の伊福部が具体的民謡的素材を求めるファリアを追ったのとは反対に、早坂は貴族的なラヴェル形のロマン的志向に走るようになった。しかもラヴェルの危弱性には危険を感じ、健康な剛健さを同時に求める傾向となった。「春夫の詩による四つの無伴奏歌曲」1944もその範疇に属する傑作である。

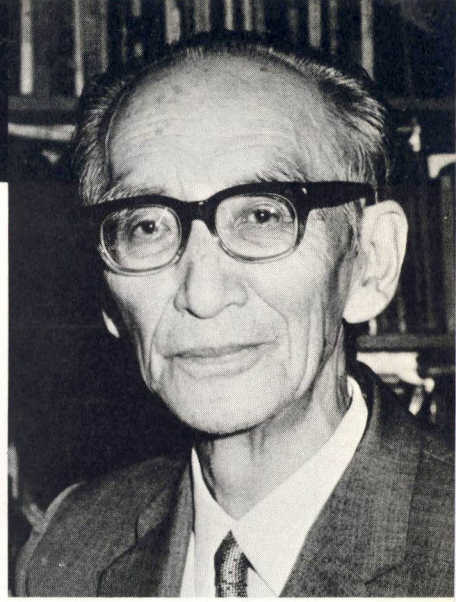
戦後間もなく清瀬保二、松平頼則らと新作曲派協会を設立、1947～52年の間にピアノの為の「詩曲」、ピアノ曲「三つの挽歌」、４個の木管とピアノの為の「キャプリチオ」、「弦楽四重奏曲」、「ヴァイオリンとピアノの為の二重奏」、「八人の奏者による七つの部分の組曲」を発表した。その間に「ピアノ協奏曲」が1948年東響主催「日米現代音楽祭」で初演された。また1955年（昭30）東響の委嘱により作曲初演された交響的組曲「ユーカラ」は彼の唱える汎東洋主義(パンエシアニズム)を具現した作品として多くの問題を提起し、後輩作曲家に与える影響力は大きかった。同年10月15日、長年の持病が悪化し、不帰の客となった。

6. 清瀬保二



遠山音楽図書提供

日本祭礼舞曲　1940
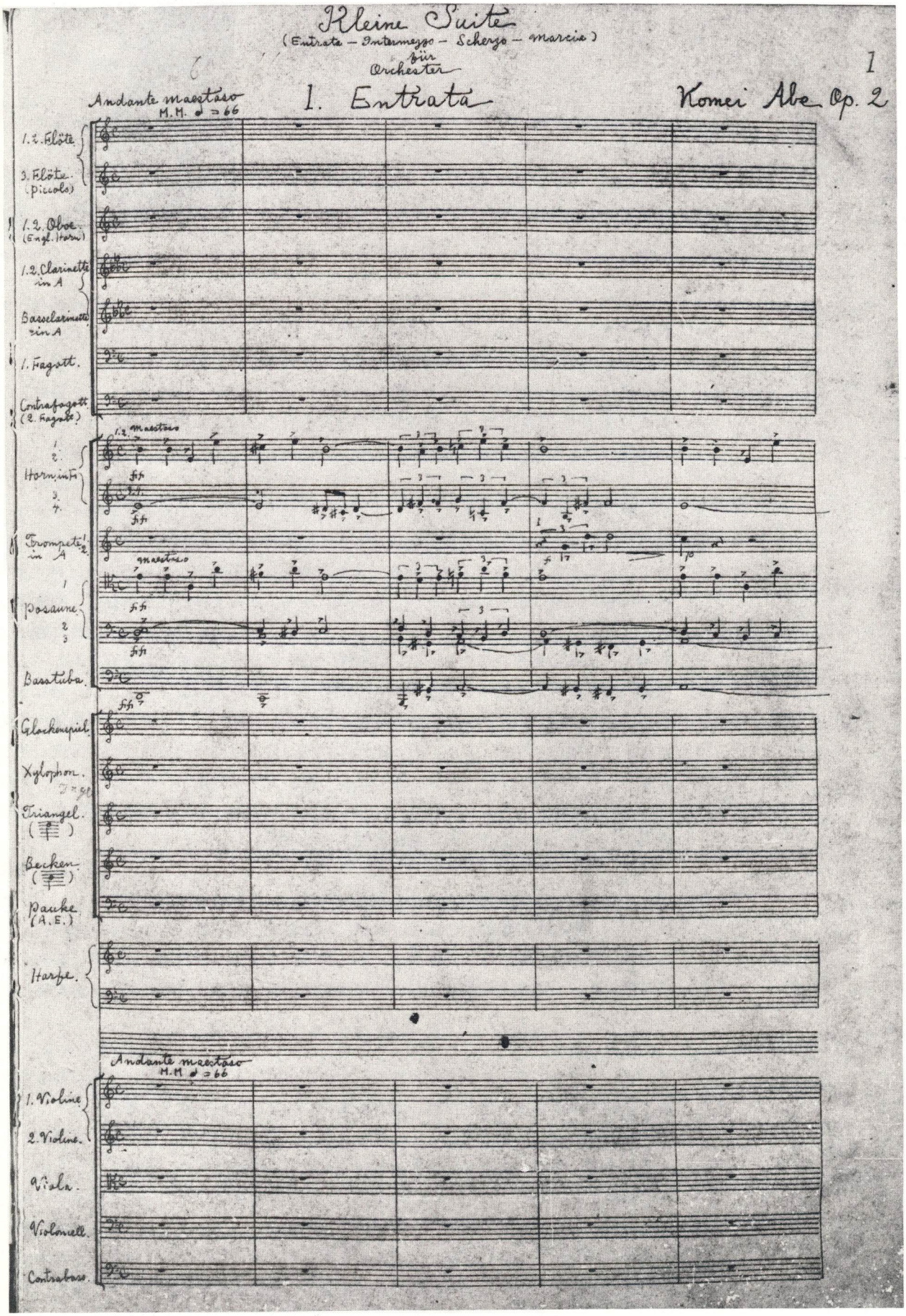


小原敬司氏撮影

1900年（明治33）大分県宇佐郡四日市町生れ。父は地主で尺八、箏、三味線等の師匠を何か月も滞在させて楽しむほど邦楽を好む人であった。彼は中学時代兄からヴァイオリンの手ほどきをうけた。松山高校英文科に入ったが21才のとき作曲を志し、中退して上京、山田耕作の門をたたき、２か月間和声を習ったが、西洋和声に懐疑をいだき帰郷した。そして３年間鹿児島でピアノを独習しつつ、独自の芸術上の基礎が築かれた。またその頃（大正10年）結婚。1928（昭和３）年啄木と同郷の歌手照井瓔三と知り、啄木の歌「いつとなく」が上演され、またレコード化されて作曲家としての第一歩を歩みはじめた。翌年一年間小松耕輔に自作をみてもらい、のち三年間ブリングスハイムに理論を学んだ。また彼はピアニストとして照井瓔三と現代スペインやフランスの歌曲の発表に協力し、その他主にラテン系の現代音楽、邦人作品の発表演奏をして歩いた。そして彼のピアノ曲や歌曲は国民音楽協会や歌手照井氏をはじめ、萩野綾子、四家文子、太田黒養二、関種子らによって次第に上演されるようになった。また当時最も現代音楽の紹介につとめた雑誌「音楽新潮」に自作の発表や寄稿をした。1930年（昭５）新興作曲家連盟を発起人の一人として組織、のちには当連盟の委員長を長年つとめる等して密接な関係を保った。1934年チェレプニン来日の際は認められてピアノ曲「丘の春」、「第一ピアノ曲集」、「信濃民謡曲集」、「ピアノ小組曲」がチェレプニン・エディションにより内外に出版され、国民やチェルカッシィ、ブライロフスキーにより紹介され、続いて来朝したティボー、ケンプ、ジルマルシックス、ワインガルトナー等により推奨された。昭和15年の紀元2600年記念芸能祭には委嘱されて作った管弦楽「日本舞踊組曲」が初演された。

戦後は作曲グループ「新作曲派協会」を結成して1947年以来９回とも室内楽の新作を発表し続けた。その頃の主要な作品には「土の歌」、「ヴァイオリン・ソナタ」、ピアノ曲「バラード」、「四つの前奏曲」合唱曲「球根」、「蛇祭り行進」等がある。また彼の作品のうち石川啄木歌曲集（昭22年、新興音楽出版）、清瀬保二ピアノ作品集（昭33年、音楽之友社）、清瀬保二ピアノ曲集（昭40年、カワイ楽譜）、清瀬保二歌曲集（昭47年、全音楽譜）が出版されている。

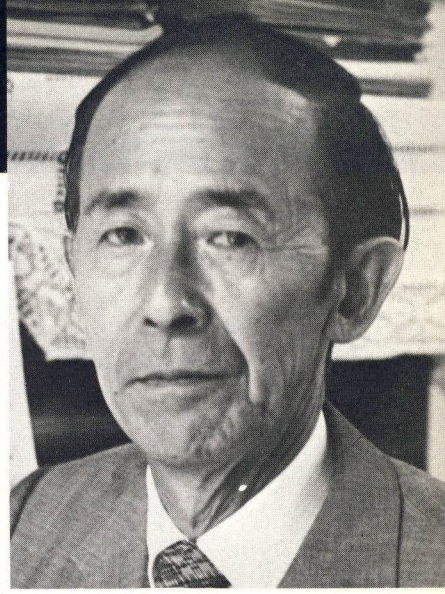
大部分の日本の作曲家が大都会に生れ育ち、学校教育の教程に則して学んだのに対して、清瀬保二は日本の中の九州の余り知られていない町に生れ育ち、或は多感な青年期を鹿児島で孤独な生活を送ったときに、人生を考え、音楽の在り方を深く考えた点で、かなり一般的な人間形成とは異った道を歩んだことを注目すべきである。特に音楽については、与えられたものをそのまま自己の方法としてとりいれるのでなく、どのようにとりいれ、自己に適合させてゆくかを考えながら歩んだ。そして作曲というものが単に西洋の固定化された法則の踏襲であっては意味のないことに早くから気づいていたことは重大である。彼は日本の近代化されない伝統文化の中に自然な形で育っていたのである。それゆえに独特な作風が生れ、きわめて個性的な作品が生れた。それは殊に戦前のピアノ曲や、歌曲作品についていえるのである。管弦楽作品のみで清瀬氏の芸術全般を評価することはできないのである。

7. 安部幸明



安部幸明氏提供

小組曲　1935



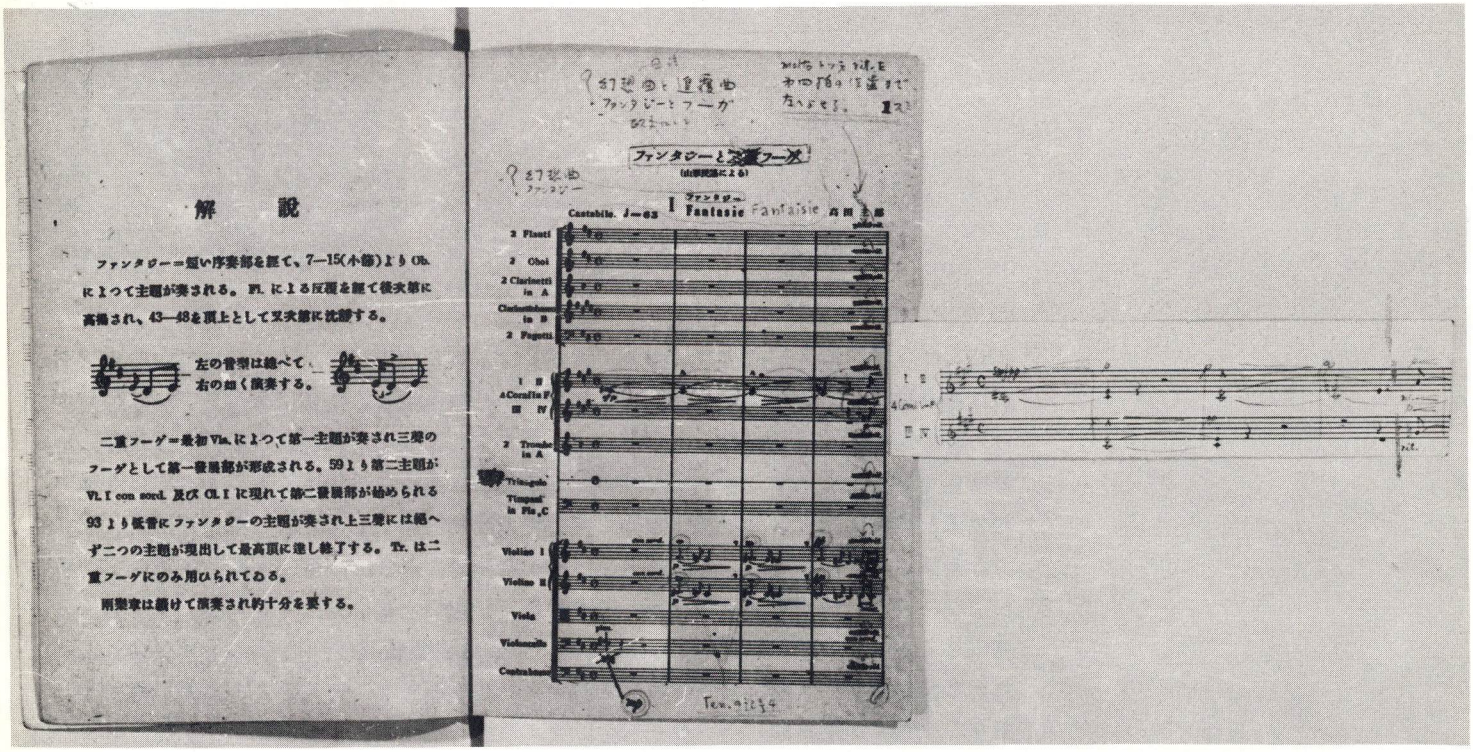
小原敬司氏撮影

1911年（明治44）広島生れ。陸軍々人の父は音楽を軽蔑したため、東京府立七中３年のとき密かに買い求めたヴァイオリンを奏いていた彼は激しい叱責にあった。しかし一度だけ上野の音楽学校受験の許しをえた彼は中学５年のときチェロを買い求め、猛練習の結果合格して器楽部に入学。本科卒業後研究科作曲部に進み、プリングスハイムにつき和声、対位法、作曲楽式、管弦楽法を修めて1936年（昭11）修了した。またローゼンストックにつき指揮法を７年習った。25年日本現代作曲家連盟に入会、「第一弦楽四重奏曲」を発表したが、1939年深井史郎、原太郎、山田和男、小倉朗、尾崎宗吉らと楽団「プロメテ」を結成して室内楽を２回発表した。また同年「チェロ協奏曲」がワインガルトナー賞に入選した。戦後の1949年（昭24）には平尾貴四男、高田三郎らと「地人会」を結成、第６・第７・第８の「弦楽四重奏曲」、「フルートとピアノの第二ソナタ」、「サキソフォンとピアノの嬉遊曲」等を続けて発表した。1954年作の「交響曲第一番ホ調」は毎日音楽賞受賞。1960年ＴＢＳの委嘱で作曲放送された「交響曲第二」は芸術祭奨励賞を受賞した。また1964年日本フィルハーモニー・シリーズで委嘱された「シンフォニエッタ」は多くの賞讃をえた。1952年から約十年間、広島音楽短大教授。1954年から京都市立音楽短大教授。69年芸術大学に昇格以来同音楽部長。1960年から63年まで日本現代音楽協会委員長をつとめた。

彼は初期から弦楽器を好み、そのため弦楽四重奏曲は９曲まで書き続けたが、その中でも第７番は好評を得た。彼は作曲の上で、格式を重んじ、概してロマン主義的傾向が強かったが、交響曲を作る頃はソビエト社会主義リアリズム作家を範とするように傾いた。しかし彼の作風は重苦しい重圧感を与えることを嫌い、観念主義には走らなかった。しかし民族主義も、12音主義も彼の容れるところではなく、和声の上でも旋律の上でもできるだけ簡明卒直に表現することを好んでいる。そして何時きいても肩の凝らない音楽を作ることを望んでいる。

彼は原子爆弾の出現に関して、人間がすべての点ですぐれてきたと自惚れていることを批判し、しかし人智は精神文化方面では200年前も500年前からも少しも進歩してはいないことを指摘し、例えば昔の人の言った格言や箴言が現代にも通用しているし、ゲーテの文学も現代人に感銘を与えることを強調している。またベートーヴェンの音楽と現代音楽では例えば和声の面だけから見ても甚だ異ってきているのは疑いないがそれが人間の進歩した結果であり、原子爆弾の生まる時代だから必然の結果とは考えたくないと表明した。

8. 高田三郎



解　説

ファンタジー＝短い序奏部を経て、7—15(小節)より Ob. によつて主題が奏される。Fl. による反復を経て後次第に高揚され、43—48を頂上として又次第に沈静する。

左の音型は絶べて右の如く演奏する。
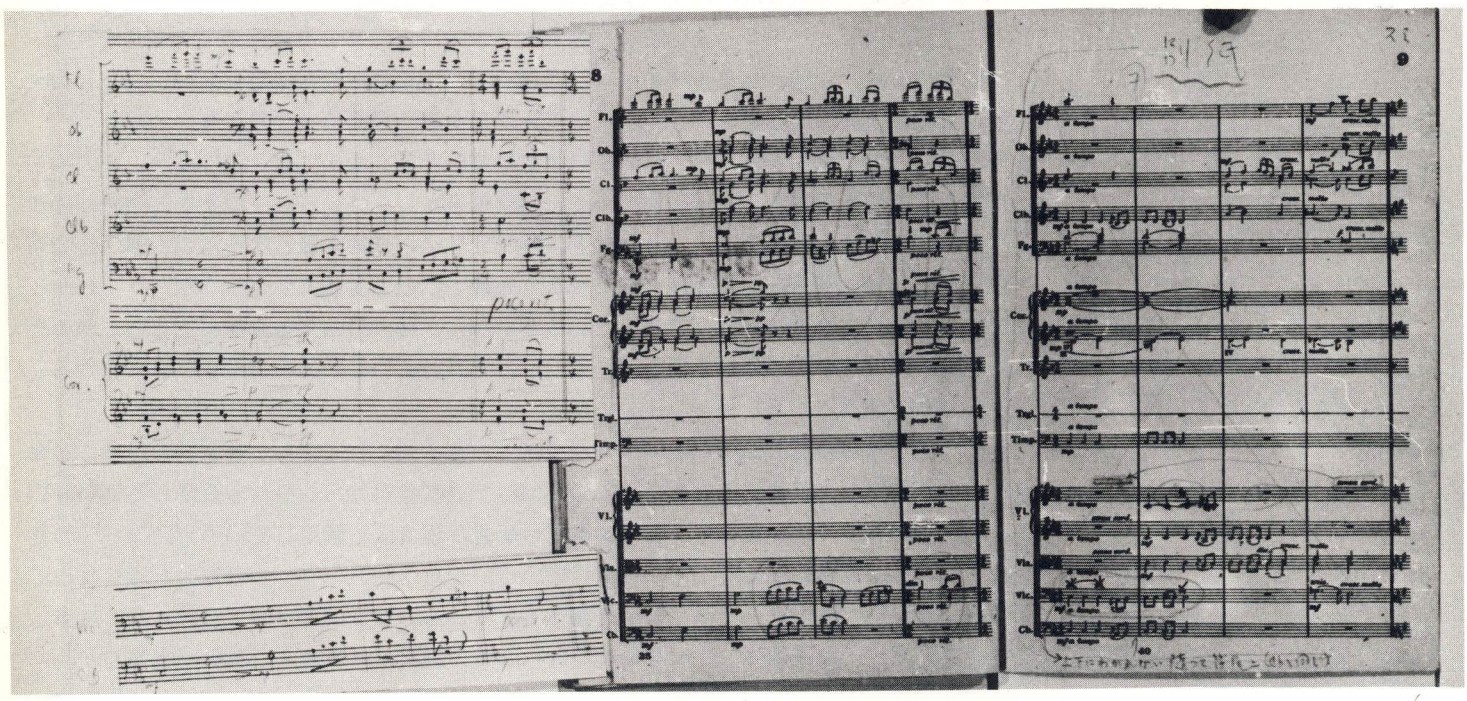
二重フーゲ＝最初 Vla. によつて第一主題が奏され三声のフーゲとして第一発展部が形成される。59より第二主題が Vl. I con sord. 及び Cl. I に現れて第二発展部が始められる 93より板書にファンタジーの主題が奏され上三声には絶へず二つの主題が現出して最高頂に達し終了する。Tr. は二重フーゲにのみ用ひられてゐる。

所要時は続けて演奏され約十分を要する。

ファンタジーとフーガ
(山田民謡による)

Castabile. ♩=63 I ファンタジー Fantaisie 高田三郎

2 Flauti
2 Oboi
2 Clarinetti in A
Clarinettino in B
2 Fagotti
I II in C Corni in F
III IV
2 Trombe in A
Triangolo
Timpani in Fis, C
Violino I
Violino II
Viola
Violoncello
Contrabasso



遠山音楽図書館提供

山形民謡によるバラード　1941



音楽之友社提供

1913年（大正２）名古屋生れ。弁護士の父は謡曲をたしなみ、母と５人の兄味はみな音楽を愛する家庭に育った。愛知一中を卒業後、東京音楽学校作曲部に入り、信時潔からバッハを、プリングスハイムからワグナーを学び、フェルマーから対位法を、グルリットから管弦楽法を、福井直俊からピアノを習った。本科作曲部卒業後、研究科作曲部に２年学び、更にその後も聴講科指揮部に２年学んだ。またローゼンストックにも指揮と作曲を習った。同校管弦楽部には８年間在籍し、指揮者として活躍し、管弦楽に対する豊富な知識と経験を積んだ。1942年（昭17）同校演奏会には前年の研究科の卒業作品「山形民謡によるファンタジーと二重フーゲ」と立原道造詩の「風のうたった歌」が作曲者指揮により初演されて認められるようになった。前者は後にローゼンストック、クロイツァー、フェルユー、グルリントその他多くの日本の指揮者により度々上演されて彼の出世作となった。（のち「山形民謡によるバラード」と改題）

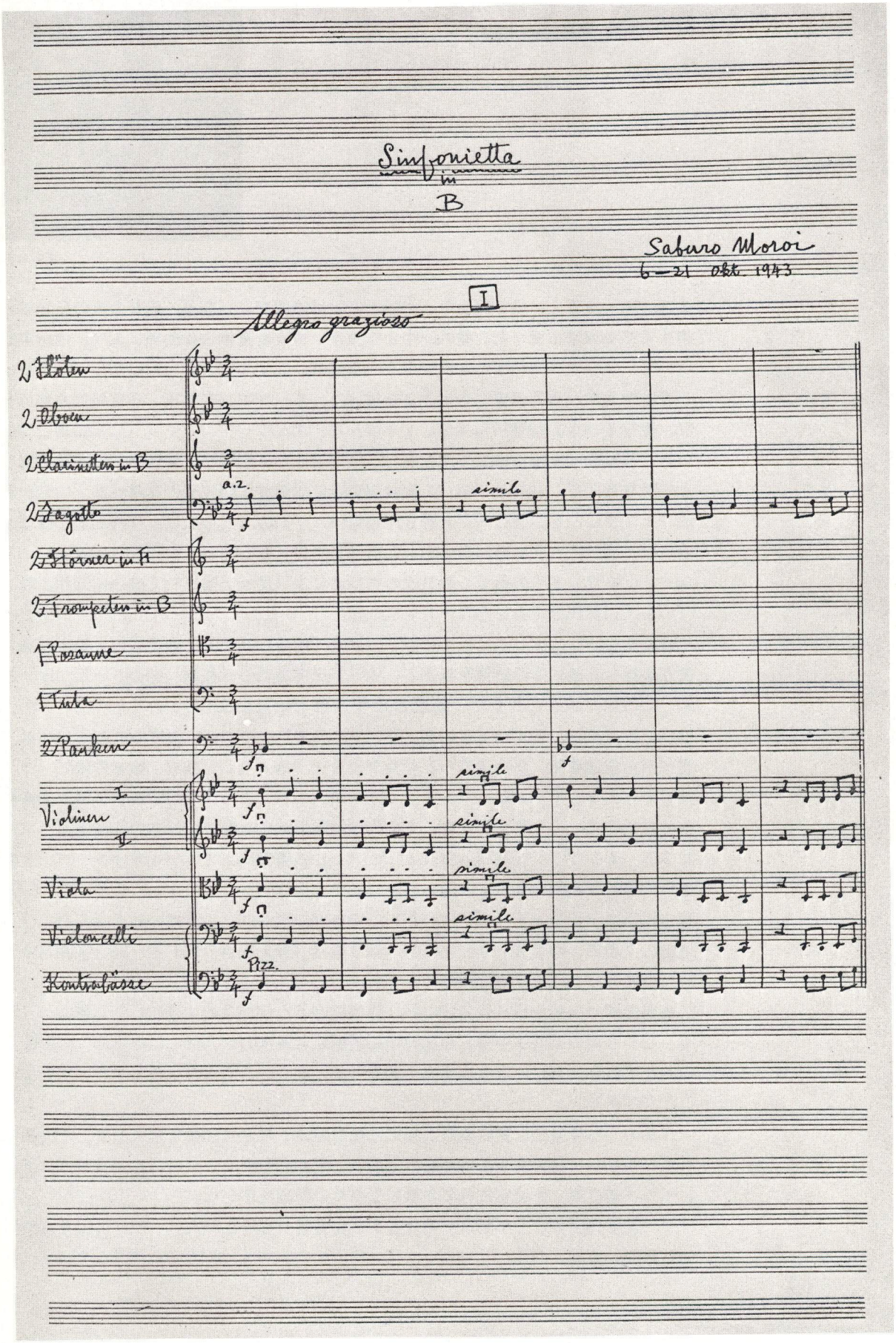
戦時中長野に疎開したときに着想し、東京で完成したピアノのための「前奏曲集」は、彼が厳格な古典音楽の研究を越えて、フランス印象派の作曲家、特にドゥビュッシーに心酔した時期の作品であるが、練磨した完成感と幽立な深まりをみせた作品である。これは1951年（昭26）安川加寿子の第１回邦人作品演奏会にもとりあげられた。1949年、平尾貴四男、安部幸明、貴島清彦らと作曲グループ「地人会」を結成、数年の間に「ヴァイオリン・ソナタ」、「チェロ・ソナタ」、「立原道造の詩による四つの歌曲」、「管楽五重奏のための室内組曲」等を発表したが、その間1952年に来日したフランスの作曲家、ヴァイオリニスト、モンブラン氏とジョワ夫人（ピアノ）の審査によるヴァイオリン・ソナタ懸賞募集に応募して優秀作として入選した。1960年富樫康監修「現代日本歌曲集」には「小譚詩」がコロムビアレコードに収録された。この時期の歌曲は「小譚詩」もそうであるが「立原道造による四つの歌曲」1949～50 や「雨は降る」(野上彰詩)1954 等、彼の歌曲の中でも粒選りの傑作が生み出されている。

高田三郎の芸術からは斬新さとか、強烈な刺激とかを求めようとしても無益なことである。むしろ彼の芸術は中庸な節度の中に透徹した浸透力と、中心にきらめく光彩を見出すことができる。そして濃厚な事大主義よりも、爽やかな清潔感を重んずる性格をよみとることができる。

作品のうち管弦楽と室内楽はともに10曲を越え、歌曲は20曲を越えるほどであるが、それぞれがかなり充実度をもったものである。昭和47年度芸術祭には井上靖原作による大作オペラ「蒼き狼」を委嘱されて作曲して多くの話題をまいた。

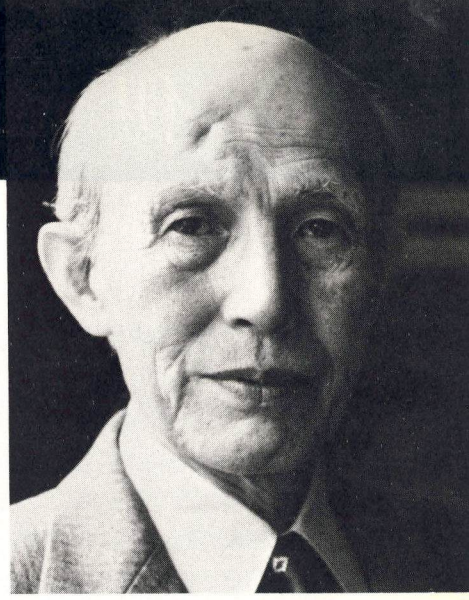
また彼は1963年から年間日本現代音楽協会委員長をつとめた。　現在は国立音楽大学作曲科教授の要職にある。

9. 諸井三郎



諸井三郎氏提供

小交響曲 変ロ調　1943



小原敬司氏撮影

1903年（明治36）東京生れ。祖父は秩父セメントの創立者で長兄の貫一がその社長を引継いだが、三郎は音楽好きの貫一からバイエルを習いはじめ、小学校５年の頃には自己流に作曲しはじめた。東京高等師範学校附属中学３年の時、ピアニスト小倉末子が歴史的演奏会を６回行ったのをきいて作曲家になる決心をしたが、厳しい家庭の為、そう簡単には許されなかった。浦和高校時代、萩原英一につきピアノを正式に習い、その後ウィリー・バルダスに３年師事し、同時に作曲もみてもらった。東大文学部在学中は日本に作曲の良書がないため、プラウトの音楽理論全集を読み、また古典曲のアナリーゼ（楽曲分析）を自分で行った。そして自身のアナリーゼの方法が彼の作曲上の重要な基礎となった。大学３年の時、河上徹太郎その他と「スルヤ楽団」を組織、1927年（昭２）の第１回発表会から31年（昭６）にいたるまでの間、７回にわたって自作品を中心として発表した。同年音楽理論音楽史研究所を設立、山根銀二と雑誌「音楽研究」（のち「音楽評論」と改名）を創刊した。又同年朝日新聞社が主催して諸井三郎作品発表会を開催。これを機に父の同意をえられた。

翌32年渡独、ベルリン国立音楽学校作曲科に入リ２年間に作曲、和声、対位法、管弦楽法及びピアノを習った。在学中「ピアノ・ソナタハ長調」を校内で発表、「ピアノ協奏曲ハ長調」、「第一交響曲ハ短調」がベルリン短波放送局で初演された。1934年（昭９）帰国。36年第12回国際オリンピック大会芸術競技調査委員として渡独。1937年新響第１回邦人作品コンクールに「ピアノ協奏曲ハ長調」が入選して日本初演。同年「チェロ協奏曲」、「ヴィオラ・ソナタ」、「フルート・ソナタ」がベルリンで初演された。翌38年10月の新響定期に「交響曲第二番」初演、翌39年日本作曲家連盟第10回に「弦楽六重奏曲」を発表して好評をえた。43年には井口基成が諸井の「ピアノ・ソナタ第二番」を演奏して芸術院賞をうけた。それ以後も「交響的二楽章」、「交響幻想曲」、「小交響曲」、「第三交響曲」等を連続的に作曲。日本における数少ない交響曲作家としての地歩を築いた。

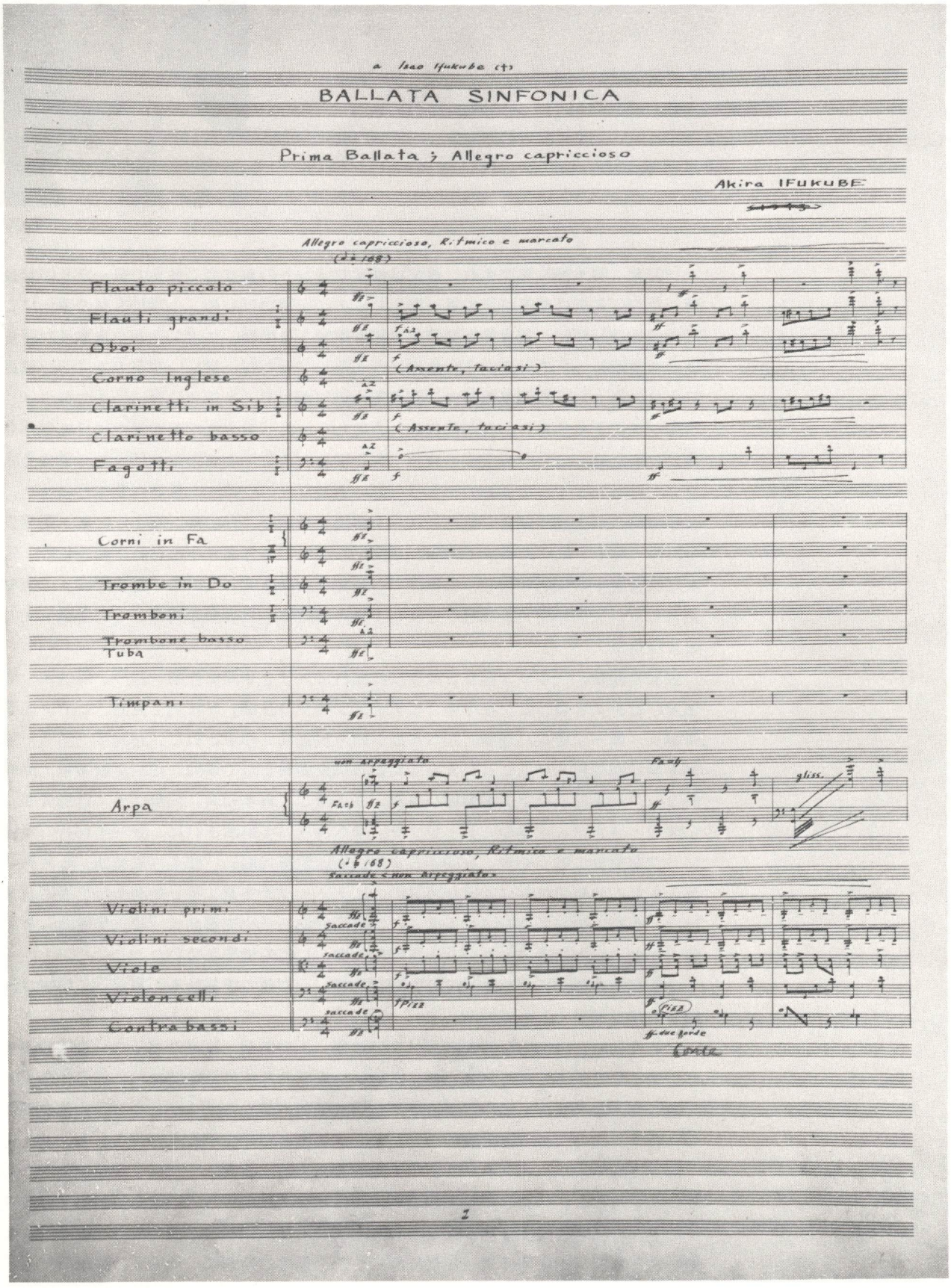
彼はまた戦後から文部省社会教育局視学官、その他の要職を多く兼任し、現在は洗足学園音楽学部長をつとめている。

私的作曲教育の面では戸田邦雄、柴田南雄、入野義朗、團伊玖磨その他数人の有能な後輩を育てたことでも知られている。またいうまでもなく作曲家諸井誠は彼の子息である。

彼は音楽著書も多く書いたが、中でも「機能和声法」と「ベートヴーェン弦楽四重奏曲の作曲学的研究」は、彼の理論の骨格をなす著書として信頼されている。

諸井氏は何よりもベートーヴェンを凡ゆる音楽の鑑と考えて、ベートヴーェンを徹底的に研究すること、それも評論家が史的、人格的な面から行っているのに対して、彼は音楽そのものの科学的研究を行い、その音楽の構造上から、どのような設計がなされ、楽曲を進行させるか、出来うる限リ精密に分析した。その結果解明した音楽の構築法を自己の作曲にも当てはめようとした作曲家である。従って彼の作品からは理論的構成の確実性をよみとることができる。また門下に対しても彼の厳格な作曲理論が影響し、浸透した。

10. 伊福部 昭



遠山音楽図書館提供

交響譚詩　1943



小原敬司氏撮影

1914年（大正３）北海道の漁港釧路に生れた。少年時代を北海道中部の広漠とした高原で過し、各地方からの移住者達の民謡や、アイヌの土俗楽を耳にしながら育ち、また時には彼らと共に歌を唄い、土民の踊りも踊ったりした。その他の楽しみといえば虫や動物をとることと、山野に遊ぶほかはなかったのである。こうした生活が彼に音楽と舞踊とそれに生物に対する関心を深める結果となった。また少年時代ヴァイオリンを習い覚え、札幌二中に入学した彼は、そこで三浦淳史（現音楽評論家）を知り、氏から当時としては未知なサティ、ストラヴィンスキー、ドビュッシー等の作品を教えられた。そして16才の三浦から15才の伊福部は音楽をやる以上、作曲以外は意味のないことを強調されたため、彼は独りでひそかに作曲の勉強をしはじめた。だが彼は音楽学校に進まず、北海道帝国大学に入り、林学を学んだ。この頃、早坂文雄を知り、共に「新音楽連盟」を組織して、グリュンベルグやシュールホフ等の現代作品を日本初演したり、また近代手法による民族的作品を試作するようになった。同時に彼はまた三絃と邦楽を芸妓から習ったりもした。

19才のとき最初の作品「ピアノ組曲」を書き、ジョージ・コープランドに送り激賞された。この作品はのち1938年（昭13）ヴェニス国際音楽祭に入選し当地で初演された。1935年（昭10）に彼は３管編成で９人の打楽器を要する最初の管弦楽曲「日本狂詩曲」を書き、ボストンの指揮者フェビアン・セヴィッキーに送り、当地で初演されたが、初演前にチェレプニン賞に応募したところ第１席に入賞し、のちチェレプニン・エディションにより内外にひろく出版された。こういった機縁で来日したチェレプニンは北海道の彼を訪ね、短期間ではあったが彼を熱心に音楽教育した。その他彼は誰からも音楽教育をうけたことはない。昭和10年以来、林務官として北海道の寒村に５年間林業労務者とともに起居しながら更に彼はアイヌ音楽からヒントを得た室内管弦楽「土俗的三連画」を作曲、またニューヨーク在住のチェレプニンとの共作、同氏キャストによる舞台舞踊音楽 "Bon Festival" を書き、これがウィーンで出版され、ロシアバレー団により上演された。1940年（昭15）再び北大の林学教室に戻り、その頃「ピアノと管弦楽のための協奏風交響曲」（昭和17年東響主催「現代日本の作曲」演奏会で初演）と「交響譚詩」を書き、後者はビクター管弦楽懸賞に第１席入賞し、文部大臣賞を受け、レコード化された。

1946年（昭21）上京して東京音楽学校（今の芸大）作曲科に７年間教鞭をとったが、その門から官学出身としては異色の芥川也寸志、黛敏郎らを輩出した。1951年作「ヴァイオリンと管弦楽のための狂詩曲」は翌年ジェノアで行われた第２回国際作曲コンクールに入選、また三浦淳史に捧げた「シンフォニア・タプカーラ」は1955年インディアナポリス交響楽団とセヴィツキー指揮により初演された。また1946年作の「ギリヤーク族の古き吟誦歌」は58年富樫康監修「現代日本歌曲集」としてコロムビアでレコード化された。

彼は音楽上の観念主義を嫌って、「一見現代的と評される作品の中には、結核療養所の花壇のようで一応美しくもあり、気がきいているが、何か足りない。即ち生活と、力と、量に乏しい。これらの無気力と無感動を生む因子を《ブルジョア的虚脱》である」と批判している。現在東京音楽大学々長。

戦前の日本作曲界

—そのオーケストラ作品を中心に

富樫　康

日本の作品が上演されるとき以外は、最近はオーケストラに限らず、どんな音楽会にも殆ど行かなくなった私であるが、それでもシーズンオフの夏以外は、1週間に平均2回は音楽会に出かけているように思う。そのくらい近ごろは日本の作品が演奏される機会が多くなったといえる。時には一夜に2、3か所で上演されることがあるので、そういうときには、常々日本人の作品は聴きのがすまいと心がけている私にとってはまことに困った日なのである。

いま一番水準が高いといわれているNHK交響楽団が、戦前は、その名もこちらのオーケストラと同じ新交響楽団という名称で活躍していたとき、月に一度の定期演奏会を日比谷公会堂で行っていたが、その定期に行くことは、日本の音楽愛好家にとっては一番プライドの高さを保持できる行為でもあった。その新交響楽団、略して新響が、ドイツから当時ナチス党のユダヤ人圧迫のために日本に移住してきた指揮者のジョセフ・ローゼンストックを、ゲネラル・ムジーク・ディレクターとして、いわば常任指揮者として1936年に迎えたとき、その指揮者は、まだ日本人にとっては耳新しいドゥビュッシー、ラヴェル、ド・ファリア、ストラヴィンスキー、バルトークといった作品をどんどん初演したのである。といっても、もちろんベートーヴェン、モーツァルトが、プログラムの主体ではあったが、20世紀初頭を飾る作曲家の管弦楽作品は、ローゼンストックによって日本に初めて実際に紹介されたわけである。この指揮者はたいへん厳しい指揮者で、一公演について約10回の練習を行って、びしびし楽員を鍛えたために、楽員はふるえあがったそうだが、そのために新響の素質は急速に向上して、それまでは演奏不可能だった前述のような新しい作品を、上演に遭ぎつけることができたのである。そのために、その中でもストラヴィンスキーの「火の鳥」や「ペトルーシュカ」、「春の祭典」を演奏可能になった新響は、それだけ肩身が広くなったのである。

そのストラヴィンスキーの3部作を、いまでは日本のアマチュア・オーケストラである現の新交響楽団が昨年6月の定期で、一晩に全部芥川也寸志の指揮で上演したことをきいて、私は実は一驚したのである。これはいまでもプロのオーケストラが3曲を一遍に上演することは、相当な決心と用意をしなければできない仕事であるから。それだけに現在の新響はアマチュアのオーケストラといっても水準はきわめて高いといわなければならない。だが20年前に新響を創立して以来、ストラヴィンスキーの3部作の上演は長年の夢ではなかったのだろうかという気がする。

その長年の夢を遂に実現しえた新響が、その次にやるべき新しい課題として、今年の秋に、戦前の日本の作品を再認識する為に上演しようと心懸けたのは実に貴い仕事である。文学界や画壇では、たえずそのようなことが日常的に行われているのに、ひとり音楽界だけは、自分達の先輩が苦労して遺した業績に対して、目を向ける態度が著しく稀薄であった。楽壇がそうであったから、一般の音楽愛好家は一層知る由もない。だが実際はわれわれの洋楽移入以来百年を経過したうちの、最近でない、戦前の楽壇にも、日本の作曲界にはいろいろな出来事があったのである。そのうちの目ぼしい作品10曲をこの9月と10月の2回に分けて新響が上演するのは、他の交響楽団にとっても見習うべき快挙である。

明治維新以来、洋楽が流入してから、自然に日本にも作曲の必要性を感じて作られたのは、先ず音楽教育の上で学校唱歌の作曲であった。勿論巷間ではいろいろな流行歌が作られ、民衆に歌われてきたが、西洋音楽の組織的な習得と作曲技法を身につけて行うまでには、かなりな時間がかかった。その中でも管弦楽の作曲を行うことは、最も困難な仕事として、手がける人はなかなか現れなかった。いわば日本の作曲界の初期は歌曲で埋められた時期である。そして戦前の洋楽界は西洋音楽をいかに正確に演奏するかが最大の目標で

あり、その為に演奏家の高さが要求されたわけで、音楽家といえば演奏家しか頭に浮ばなかったし、作曲家といえば、西洋の作曲家しか考えなかった時期である。

したがって戦前は日本にも作曲家が少数ではあるが存在していたとはいうものの、演奏家が主導権を握っていたために、作曲家は肩身のせまい思いをしていたし、いわんや自作を演奏してもらうこと自体が容易なことではなかったのである。

それにしても、山田耕作の出現は破格な出来事で、彼は1908年（明治41年）に上野の門を出た。当時はまだ上野には作曲科はなかったので（作曲科ができたのは昭和７年）声楽科を出たのだが、彼は大望をいだいてすぐにベルリン音楽学校で作曲を学んで、留学時代に日本人としては破格の楽劇「随ちたる天女」、文響曲「かちどきと平和」、文響詩「曼陀羅の華」、「暗い扉」等を作曲して一驚させたのである。また彼は帰国後の1914年（大正３）自作上演の為、日本では初めての80名余リからなる大編成の文響楽演奏会を帝国劇場で開催して、その楽員で翌年には東京フィルハーモニー管弦楽団を組織した。これが日本の交響楽団の始リである。その後も山田は欧米を股にかけてスケールの大きな活躍をして、山田耕作の独壇場はしばらく続いた。だが彼は管弦楽作品を13曲遺したにもかかわらず、彼の作曲の大半は歌曲作品で、童謡や歌曲作品は今もって盛んに歌われているのに反して、管弦楽作品はそれほど取リあげられないでしまった。

しかし山田耕作の活動は目ざましいものがあリ、それが刺激となって作曲を志すものが次第に増加したのも事実である。そのうちに1925年（大正14年）には日本で始めてラジオ放送が開始されたし、1930年（昭和５）には、これまでの小唄や低俗なジャズソングに業を煮やした少壮作曲家たち（箕作秋吉、小松平五郎、菅原明朗、清瀬保二、松平頼則、山本直忠、橋本国彦、斉藤秀雄、伊藤昇、小松清、池譲、石井五郎ら16人）が純正音楽の発展を目ざして新興作曲家連盟を組織した。これは現在 170 名余の作曲家が加入している日本の代表的作曲家団体の日本現代音楽協会の前身で、今では毎年冬と秋に「現代の音楽展」という名の演奏会を４回ずつ催している。だが設立当時のメンバーが最近行った回顧座談会を読んでみると、この会の目ざすところはアンチ・ヤマダにあったようで、山田の傾向が19世紀ロマンチズムの域を脱していなかったのに対して、この頃すでに台頭しはじめた20世紀作曲家の動きを敏感に感じとった更に後輩の作曲家にとっては我慢のできないものがあったにちがいないのである。

たまたま1933年（昭和８）にはタンスマンの来日、35年にはA・チェレプニンの来日があって、大いに啓発され、その若いグループは日本の作曲家の代表的団体と認められて、国際現代作曲家連盟（ISCM）の日本支部となリ、名前も日本現代作曲家連盟と改称した。またそれとは別に、チェレプニンは広く日本の作曲家の間から管弦楽作品を募集して、パリ在住のオネガーを始め６人の作曲家を審査員としたチェレプニン賞を設定して、応募した20曲の中から、伊福部昭作曲「日本狂詩曲」が首席、松平頼則の「パストラール」を次席と決定した。チェレプニンはその他民族的香リ豊かなピアノ曲を探し求めて、チェレプニン・エディションとして日本の他に欧米の一流出版社から楽譜を出版し、又自分でもピアノを弾いて広く紹介した。その中に選ばれたのは、箕作秋吉、清瀬保二、太田忠、松平頼則、江文也、荻原利次、早坂文雄、伊福部昭の諸氏である。これが著明な外国の音楽家から広い視野で、日本の作曲家が海外に紹介された始リである。だがこの出来事は反面日本のアカデミスト達からはかえって反感を置い、大方の楽壇からは外人の異国趣味に迎合した作曲家として決して好意的にはうけいれられなかったのである。

その他、昭和の初期には既にいくつかの作曲家による小グループが発生していた。その発生順からいうと、1927年（昭２）から諸井三郎が東大卒業の少し前に評論家の河上徹太

郎らを交えて自作品による室内楽演奏会を、昭和7 年に彼が渡独する前まで7回行っている。

大木正夫は1931年（昭6）に自作管弦楽作品演奏会を行ったが、その2年後には子弟を集めて黎明作曲家同盟を組織して、管弦楽や室内楽作品演奏会を4回行った。また1934年（昭9）には遠く離れた地方で目立たなかったが、評論家の三浦淳史が主導して作曲家伊福部昭、早坂文雄らが札幌で新音楽連盟を組織して新しい音楽を鼓吹していた。東京ではその他に、同年伊藤昇、太田忠、石井五郎、清瀬保二、江藤輝、中井駿二の6人で新音楽派を結成、これは1回の作品発表会で終った。また昭和8年には石井一郎、荻原利次、落合朝彦の3名で独立作曲家協会を設立、のちに早坂文雄、塚谷晃弘が加わって活動、4回の管弦楽及び室内楽作品演奏会をもった。

楽団プロメテは深井史朗、原太郎、安部幸明、山田和男、小倉朗、尾崎宗吉ら6人の作曲家で組織、評論家の山根銀二、園部三郎が賛助会員となって昭和12年に結成、2回の室内楽演奏会を催した。そのほか昭和3年にプロレタリア文学運動や演劇運動に呼応して作られたプロレタリア音楽同盟があり、これに参加した作曲家に守田正義、露木次男、原太郎、吉田隆子がいたが、左翼運動の弾圧をうけ、間もなく解消した。

さきほど紹介したチェレプニンは作曲家であるが、世界的大指揮者フェリックス・ワインガルトナーが1937年（昭12）に来日したとき、彼はワインガルトナー賞を設けて管弦楽作品を募集した。これに80曲余りが応募し、この中から箕作秋吉の「小交響曲」、呉泰次郎の「主題と変奏曲」、大木正夫の「夜の瞑想」、「五つのお話」、早坂文雄の「古代の舞曲」、尾高尚忠の「日本組曲」が入賞して、始めは彼がウィーンで初演する予定であったが、ナチス党の侵入の為、スイスに難をのがれて審査し、初演は2年後の、東京で行われた。

同じ1937年、指揮者のローゼンストックが着任した際、当時の新交響楽団では創立10周年記念事業として新響邦人作品コンクールを行い、当の指揮者と新響が審査した結果、荻原利次「三つの世界」、諸井三郎「ピアノ協奏曲ハ長調」、平尾貴四男「古代旋法による緩徐調」(のちに「古代讃歌」と改題)、深井史朗「パロディ的な四楽章」、江文也「俗謡に基く交響的エチュード」が入選演奏された。この催しは翌年も行われ、その第2回には荻原利次「五音音階による演奏会用日本風舞曲」、山田和男「若者のうたえる歌」、平尾貴四男「隅田川」、須賀田礒太郎「交響的舞曲」が上演された。

そのほか1936年（昭11）には日本放送協会が祝祭典用管弦楽懸賞募集（信田信夫「祝祭典序曲」、早坂文雄「二つの讃歌への前奏曲」）、1940年（昭15）には紀元2,600年記念として同じく管弦楽懸賞募集（早坂文雄「序曲ニ長調」、八木伝「組曲―日本古代舞曲」、市川都志春「交響組曲―春苑」、石井五郎「建国讃歌」）を作って括弧内の入選作を放送初演した。

日本放送協会では、これと並行して、国民詩曲という交響詩形式のオーケストラ作品の委嘱制度を作り、1938年（昭13）には8名、翌年は9名の作曲家に委嘱して放送した。その中の目立った作品には菅原明朗の「明石海峡」、山田和男の「交響的木曽」、太田忠の「狂詩曲第一」、山本直忠の「日本幻想曲」等がある。

そのほか1932年（昭7）から時事新報社が行った事業に音楽コンクールがあり、昭和12年からは毎日新聞社が引継ぎ、昭和24年からは日本放送協会（NHK）も共同主催者となって今なお続けられているが、その一部門に作曲の部があり、年によって室内楽、管弦楽と交替に募集して入選曲を演奏して賞を決めている。山本直忠、箕作秋吉、江文也、服部正、平井康三郎らはその初期の頃の入賞者で、小船幸次郎、市川都志春、石井五郎、清水修、貴島清彦らはその後第1位または2位に入賞した人達である。昭和16年の第10回に1位入賞した渡辺浦人作曲の交響組曲「野人」は、これら戦前の入賞作の頂点を築く作品として、戦前、戦後を通じてこれほど多く上演された例はなかった。

1942年(昭17)、43年には日本ビクター蓄音器会社でやはり管弦楽募集したが、第一回は当選曲なしで、第二回に入選した四曲のうち、伊福部昭の「交響譚詩」が一位入選してレコーディングされたことがある。

1940年（昭和15年）は戦前の日本人が建国2,600年という意識をもっていたので、多彩な祭典的行事が催されたが、そのうちの日本文化中央連盟が主催した芸能祭というのがあり、そのときに交響作品を委嘱されて初演されたのは箕作秋吉の序曲「大地を歩む」、清瀬保二の「日本舞踊組曲」、大木正夫の交響的舞踊組曲「羽衣」。また交声曲、音詩発表会では信時潔の「海道東征」、山田耕作の音詩「神風」が上演された。そのほか同年に山田耕作の歌劇「夜明け」や橋本国彦の「交響曲イ短調」が初演され、外国からも、この紀元2,600年記念によせてイベールや、R・シュトラウス、ピツェッティ、シャンドールといった仏独伊洪の一流作曲家から新作を作って贈られたのは、当時の事情を知る者にとっては忘れられない出来事である。というのも、その頃の日本は、日清、日露の戦役と、第一次世界大戦に勝利者としての誇りをもち、更にヨーロッパにおけるナチズムの台頭、そしてそれらが愛国の美名のもとに国家的結束を固くしようとした新興勢力の連繋と、日本の軍国主義が結びついた時代である。われわれの年代の者は、小学生時代から青年期に至るまで天皇を神格化された絶対的なものとして教育され続けてきたので、天皇制や、ナチズムのような、国民に対する統合力のある絶対的権力主義に対して疑問をはさむ余地がなかった。中学に入ると、そこには軍事教練の科目が厳然とあって、好きでもない軍人の真似事をいやでも応でもしなければならない状態になっていた。大部分の日本人が絶対的な信頼をよせている学校教育の中に科せられた課目として為されている以上は、それをしないわけには行かなかったのである。それは思想的鎖国と軍備力の強化に重点を置いている現在のソ連や中国と見方によっては共通点をもっていたのである。その辺の事情が戦後から教育をうけた人々からは、どうしても理解してもらえない。丁度われわれが忠臣蔵の47士の全員が切腹をしなければならない心理が解らないのに、当の義士からいわせればそうせざるをえない彼らをとりまく社会の状勢があったのである。

何れにしろ、われわれは音楽を政治の道具に利用されたいとは思わない。日本人の間に洋楽が入りはじめたのは、薩摩藩が横浜に駐留していた英国の軍楽隊に刺激されて、同じことを藩士に習わせようとしたのが始りである。だが洋楽が日本に定着した今日、われわれの心の中には洋楽といえば軍楽を直ぐに連想する人は殆どいない。軍楽を好む人はいまでも少なくはないと思うが、われわれはもっと高等な精神性を表現した音楽を尊重している。

すでに列挙した戦前の日本の管弦楽作品も、すべてがそういった抽象的な音の芸術によって人間の心理に、いろいろな美感として訴える力のある音楽作品を作ろうとした人達の業績の数々である。それが管弦楽となると、作曲家が自己の財力でそれぞれの作品を実際の音にして多人数にきかせることはできないので、結局は懸賞募集に応募するとか、財源のある機関から委嘱されるのを受けて作るとかいうルートにのらなければならない。そういった音楽史の積み重ねによって、現在のような発達した作曲活動が生れるようになったわけである。

1960年代以後の12音音楽が普及した今日からすれば、戦前の作品は作曲の構造上からいえば、まだまだシンプルであったかもしれない。しかしそれだけに作曲家の一人一人が純粋に心に持ち続けていた抱負といったようなものはよくわかるような気がしてならないのである。そして或る作曲家は当時のできるだけ新しい作曲技法を用いて作曲し、あるいは日本人独特の芸術観や芸術構造上の方法を探しだして、欧米とは異った独自性を打ち出すことによって普遍性を見出した人達もいるのである。

小原敬司寫眞館



昭和27年　コルトー



昭和12年　安藤幸子



昭和18年　尾高尚忠と御母堂

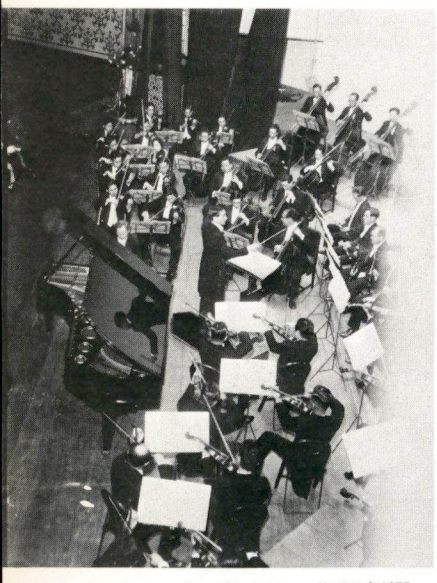


カサド、





昭和10年　アメリタ・



昭和11年　ケンプ、貴志康一指揮新響



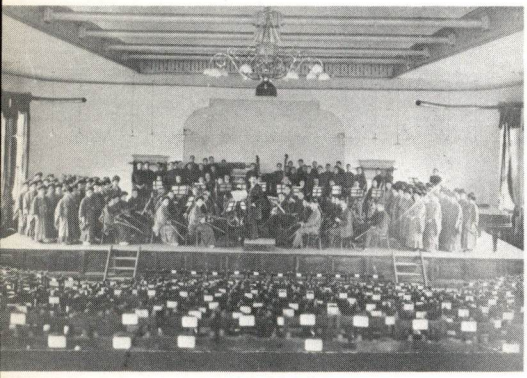
昭和8年　レオ、シロタ夫妻



シフェルブラット



ケーニッヒ



東京音楽学校第九演奏会



昭和7年　シゲティ、新響（日比谷）



昭和7年　ジンバリスト、
シフェルブラット指揮新響



昭和16年　瀬戸口藤吉指揮東響



昭和18年　日本四重奏団第1回定期



昭和27年　メニューヒン、朝比奈隆指揮関響



原千恵子夫妻



昭和12年 ワインガルトナー夫妻



ガリクルチ（帝国劇場）



昭和12年 幸田延



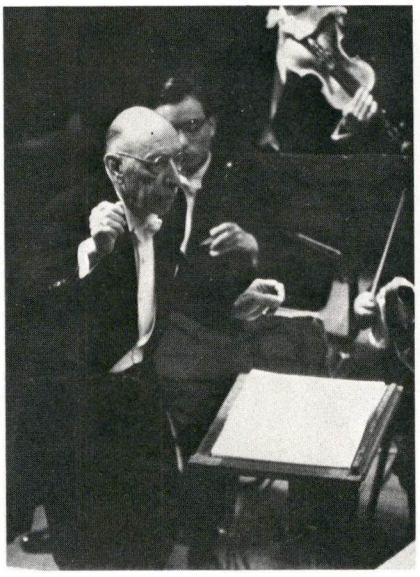
昭和6年 新響第百回定期（指揮近衛＆シフェルブラッド）



三浦環



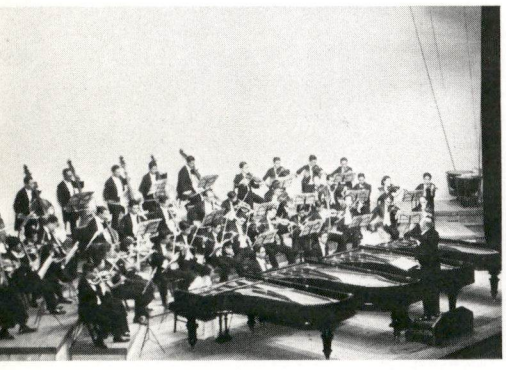
昭和10年
トスカの藤原義江とグズネツォヴァ



昭和34年 ストラビンスキー



ストコフスキー



昭和9年 クロイツァー指揮新響
（バッハ 4台のピアノ協奏曲）



昭和11年 フォイアマン、新響



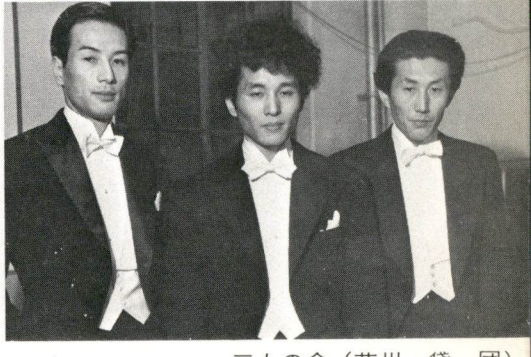
昭和11年 ティボー、指揮ポーラック、新響



エルマン、ポーラック指揮新響



オイストラフ



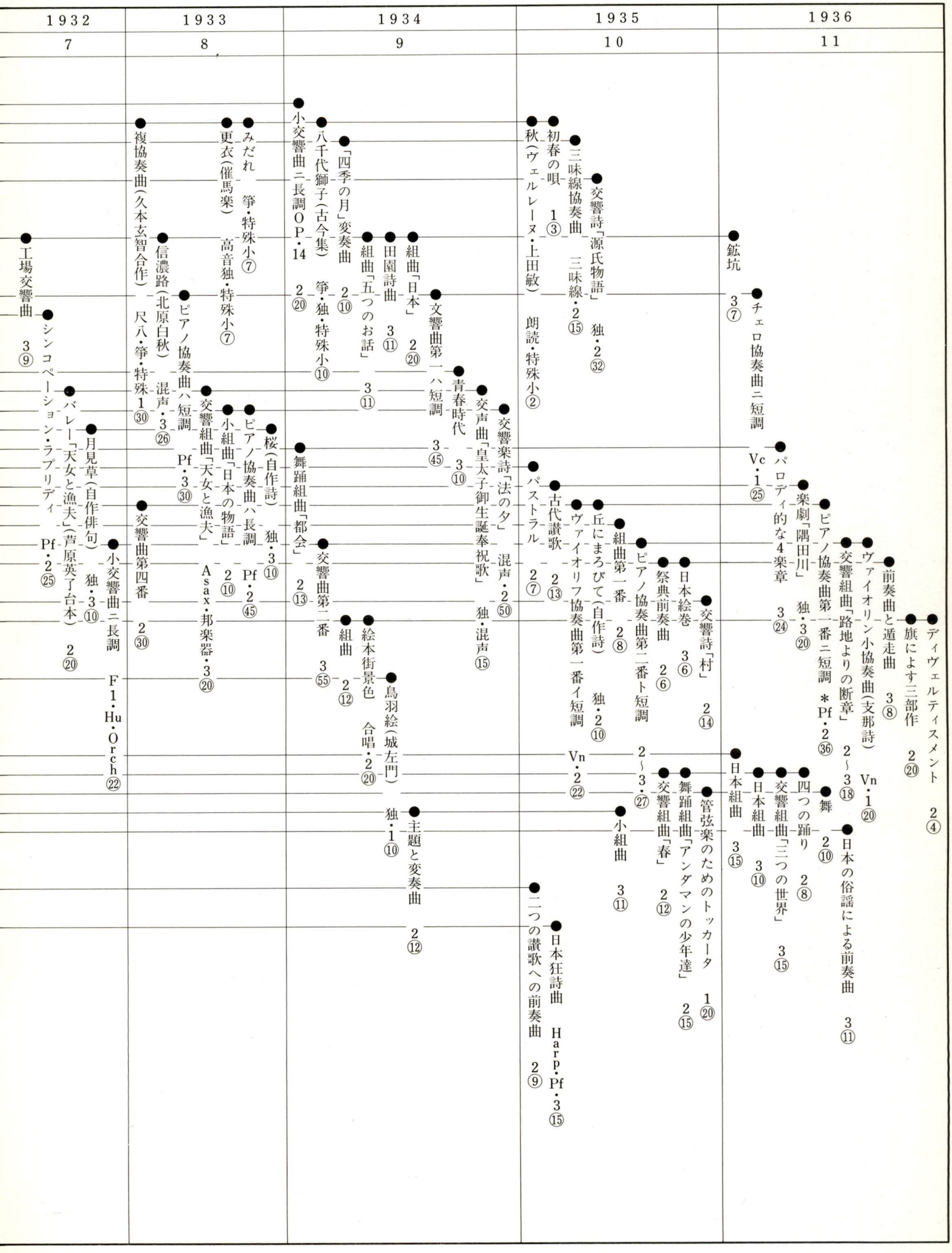
三人の会（芥川、黛、団）

（注） 文字、新交響楽団はすべて現 NHK 交響楽団

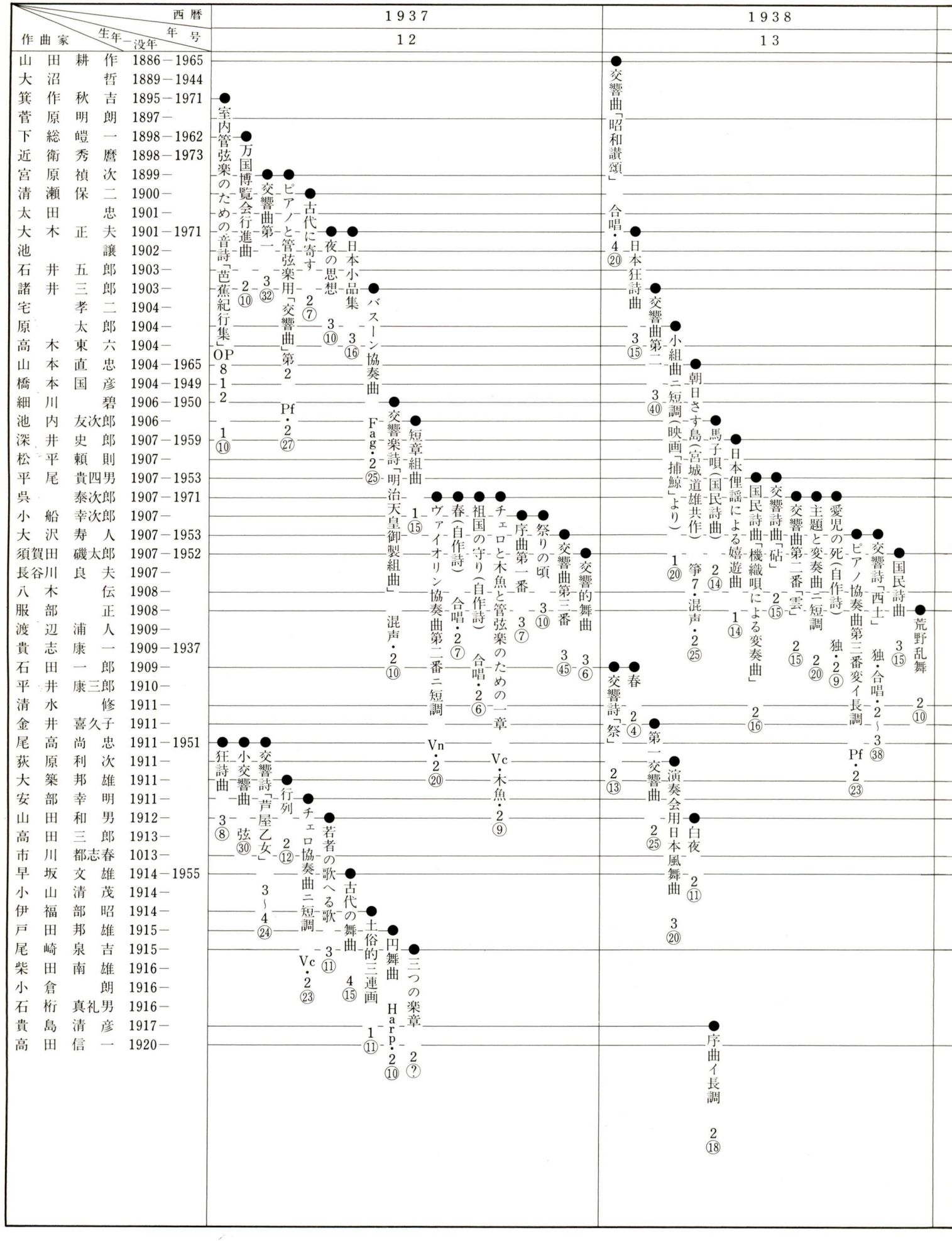
日本の交響

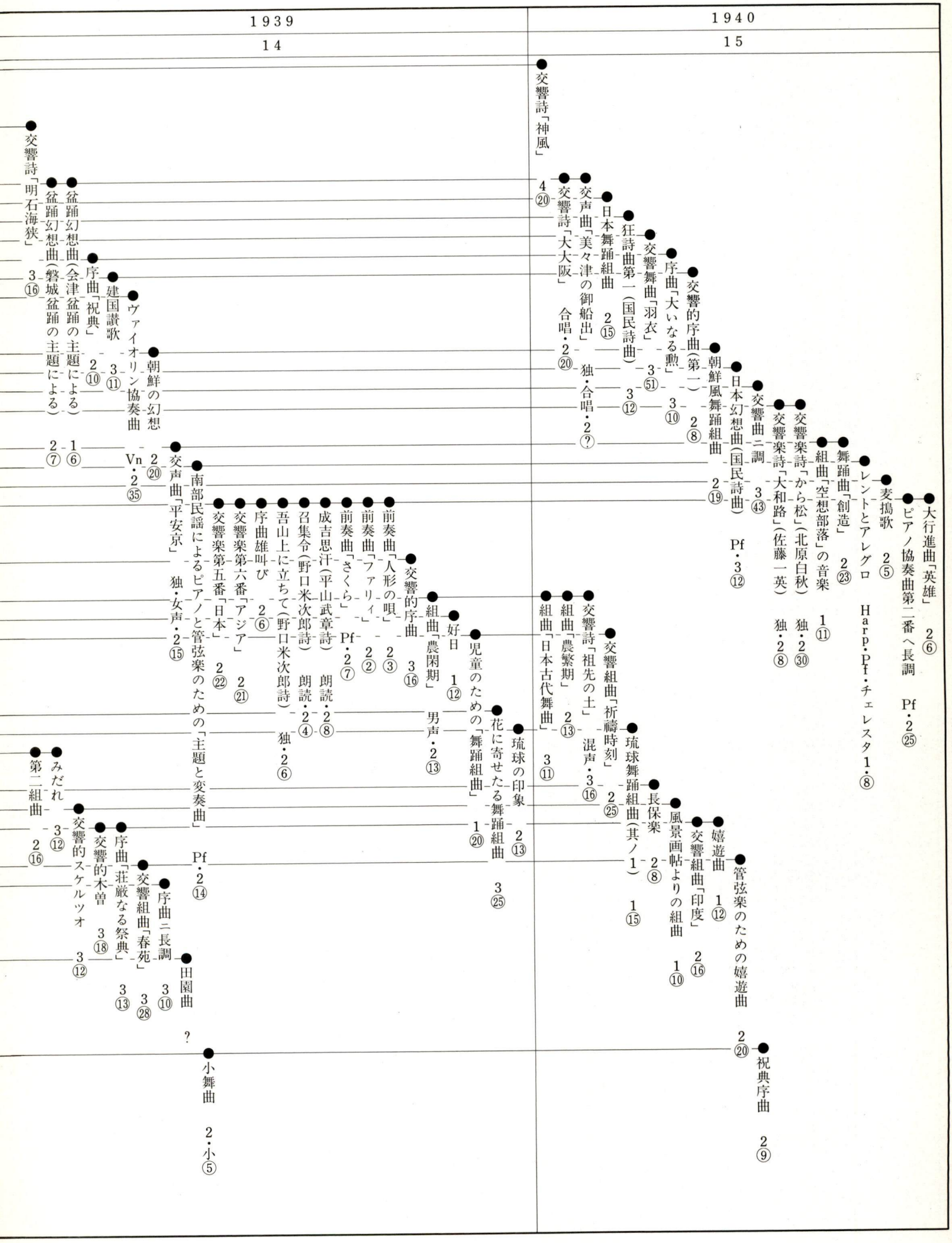
作曲家	生年－没年	1911	1913	1915					1925	1926	1927	1928	1929	1930		1932
西暦		1911	1913	1915					1925	1926	1927	1928	1929	1930		1932
年号		大正1	2	4	5	10	12	13	14	15／昭和1年	3	4	5	6	6	7
山田耕作	1886－1965	●秋の宴（メリケ詩）混声・2⑩	●音詩「曼陀羅の華」4⑫	●君が代前奏曲 混声・Org・③4	●舞踊詩曲「マグダラのマリア」4⑮	●文響曲「明治頌歌」3⑳	●交響曲「平和」2㉚	●組曲 1～2⑬		●二つの舞曲OP・1 1⑧	●組曲 2～3⑮	●二つの詩OP・5 2⑫	●歌劇「夜明け」序幕 独・合唱・4㉚	●仏国寺に捧ぐる曲（野口米次郎詩）独・合唱・3⑮	●ちどり（古今集）箏・高音独・特殊小⑯	●うたげ 朗読・特殊㉕
大沼哲	1889－1944		●音詩「暗い扉」4⑫	●日本組曲 2⑩		●文響曲「明治頌歌」3⑳					●浪漫組曲OP・3 2㉕	●祭典物語 2㉕	●交響詩「内燃機関」3⑩		●六段 箏・特殊小⑦	●神仙調協奏曲（宮城道雄合作）箏・特殊㉚
箕作秋吉	1895－1971	●交響曲へ長調「かちどきと平和」2㊵									●古典組曲OP・4 1⑳					
菅原明朗	1897－										●マルシュ・オマージュ 2⑩	●二つの詩OP・5 2⑫		●小夜楽 2⑩		
下総皖一	1898－1962											●交響的断章 2⑩				
近衛秀麿	1898－1973									●ピアノ協奏曲嬰ヘ短調 Pf・2㉕						
宮原禎次	1899－										●組曲「タンゴのパロディ」2⑮	●スケルツオ 2⑥		●交響曲第二番 2㉓		
清瀬保二	1900－									●前奏曲と遁走曲 混声・2？	●或る秋の日の思出 弦③					
太田忠	1901－									●バレー「幻術師ヤーヤ」1⑩					●バレー「吉田御典」（芦原英了台本）1⑮	
大木正夫	1901－1971									●バレー「ヒドランゲャオタクサ」2？						
池譲	1902－								●バレー「春の踊」（勝本清一郎台本）2？							
石井五郎	1903－								●交響曲第一番 2㉖							
諸井三郎	1903－															
宅孝二	1904－															
原太郎	1904－															
高木東六	1904－															
山本直忠	1904－1965															
橋本国彦	1904－1949															
細川碧	1906－1950															
池内友次郎	1906－															
深井史郎	1907－1959															
松平頼則	1907－															
平尾貴四郎	1907－1953															
呉泰次郎	1907－1971															
小船幸次郎	1907－															
大沢寿人	1907－1953															
須賀田礒太郎	1907－1952															
長谷川良夫	1907－															
八木伝	1908－															
服部正	1908－															
渡辺浦人	1909－															
貴志康一	1909－1937															
石田一郎	1909－															
平井康三郎	1910－															
清水修	1911－															
金井喜久子	1911－															
尾高尚忠	1911－1951															
荻原利次	1911－															
大築邦雄	1911－															
安部幸明	1911－															
山田和男	1912－															
高田三郎	1913－															
市川都志春	1913－															
早坂文雄	1914－1955															
小山清茂	1914－															
伊福部昭	1914－															
戸田邦雄	1915－															
尾崎泉吉	1915－															
柴田南雄	1916－															
小倉朗	1916－															
石桁真礼男	1916－															
貴島清彦	1917－															
高田信一	1920－															

作　品　年　表（戦前）

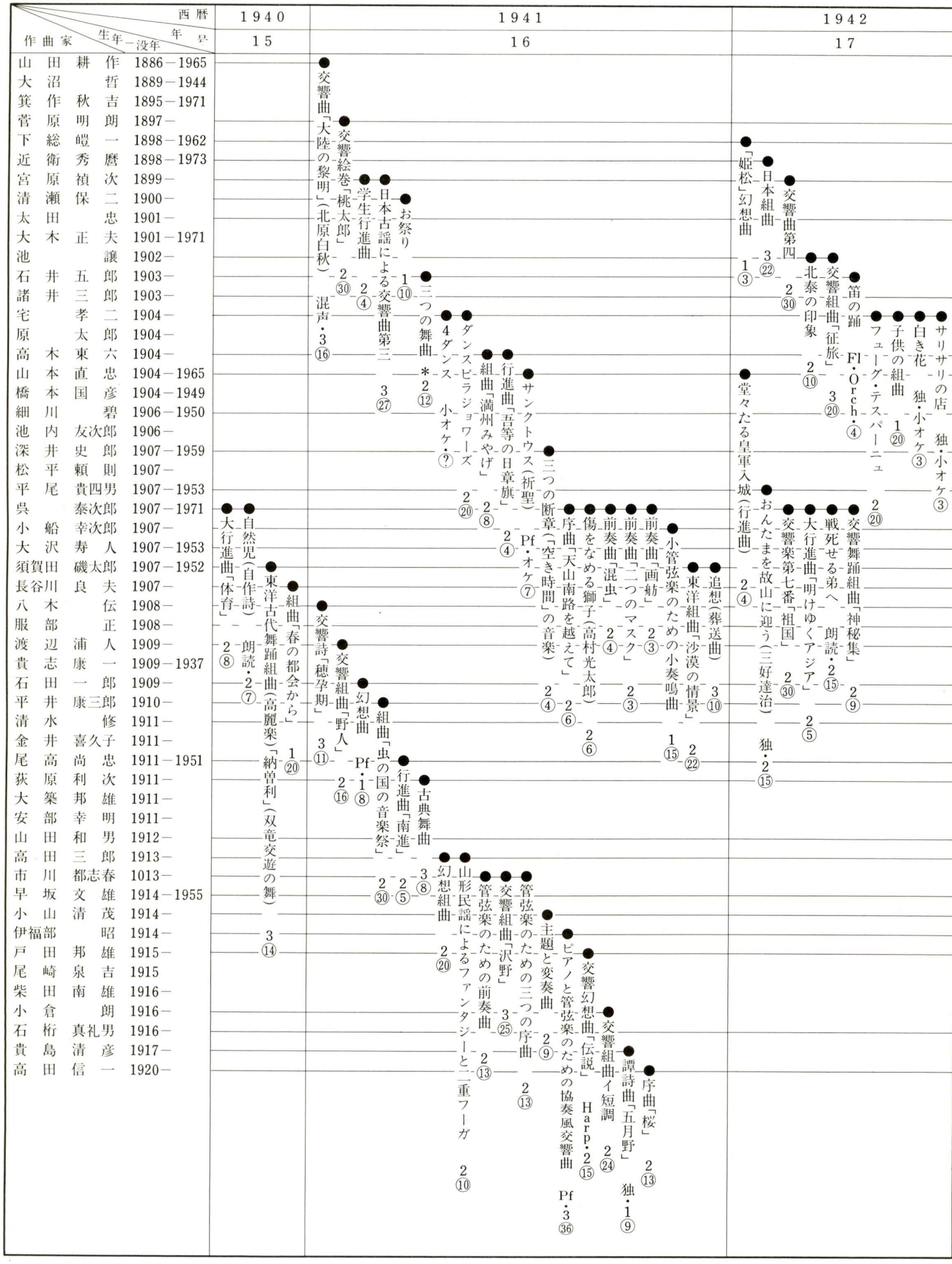


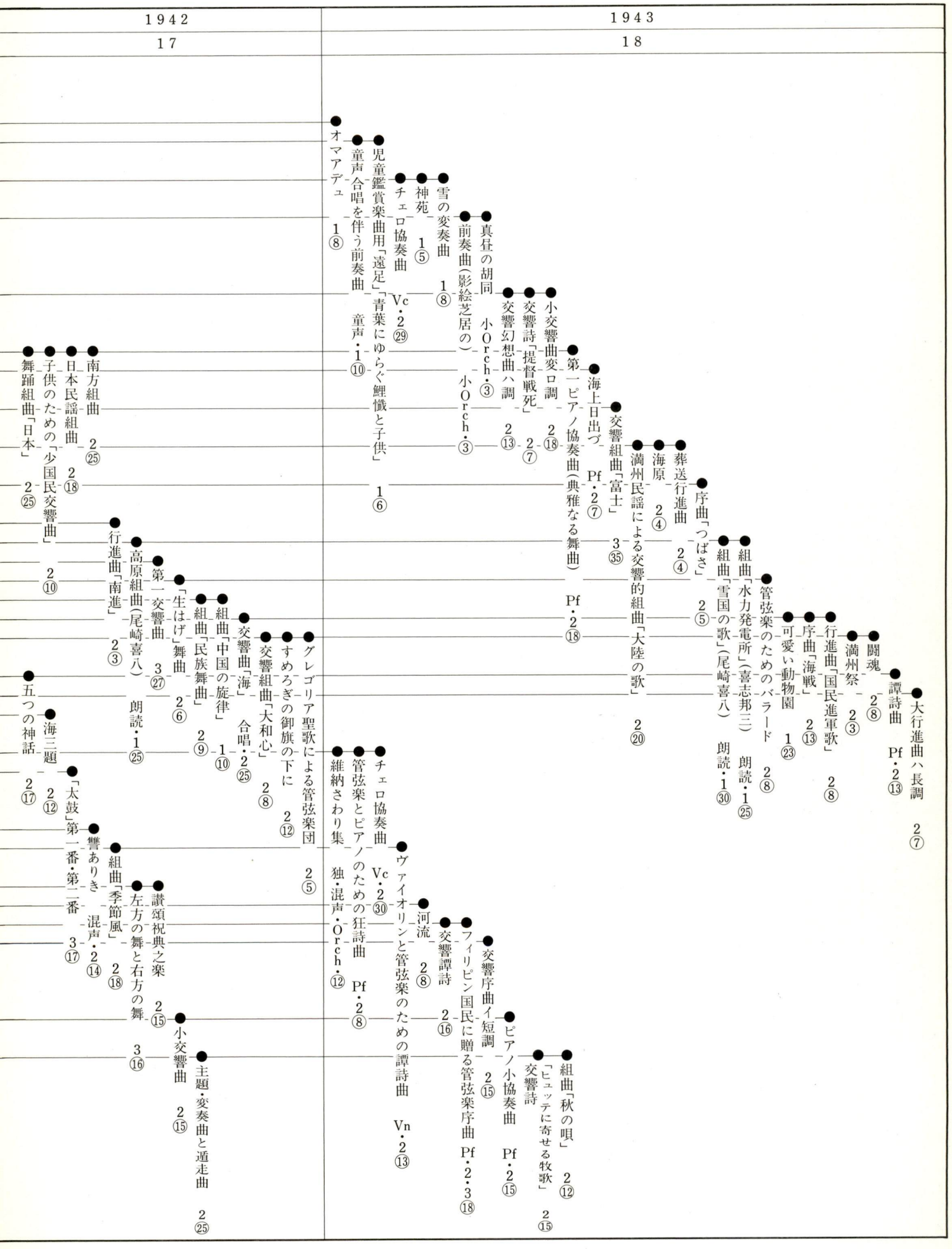
（注）曲名の下の記号は、特殊楽器，○管編成、演奏時間。


西暦
年号
作曲家
生年－没年
1937
12
1938
13
山田耕作 1886－1965
大沼哲 1889－1944
箕作秋吉 1895－1971
菅原明朗 1897－
下総皖一 1898－1962
近衛秀麿 1898－1973
宮原禎次 1899－
清瀬保二 1900－
太田忠 1901－
大木正夫 1901－1971
池譲 1902－
石井五郎 1903－
諸井三郎 1903－
宅孝二 1904－
原太郎 1904－
高木東六 1904－
山本直忠 1904－1965
橋本国彦 1904－1949
細川碧 1906－1950
池内友次郎 1906－
深井史郎 1907－1959
松平頼則 1907－
平尾貴四男 1907－1953
呉泰次郎 1907－1971
小船幸次郎 1907－
大沢寿人 1907－1953
須賀田磯太郎 1907－1952
長谷川良夫 1907－
八木伝 1908－
服部正 1908－
渡辺浦人 1909－
貴志康一 1909－1937
石田一郎 1909－
平井康三郎 1910－
清水修 1911－
金井喜久子 1911－
尾高尚忠 1911－1951
荻原利次 1911－
大築邦雄 1911－
安部幸明 1911－
山田和男 1912－
高田三郎 1913－
市川都志春 1013－
早坂文雄 1914－1955
小山清茂 1914－
伊福部昭 1914－
戸田邦雄 1915－
尾崎泉吉 1915－
柴田南雄 1916－
小倉朗 1916－
石桁真礼男 1916－
貴島清彦 1917－
高田信一 1920－
室内管弦楽のための音詩「芭蕉紀行集」 OP 8 12 1⑩
万国博覧会行進曲 2⑩
交響曲第一 3 32
ピアノと管弦楽用「交響曲」第2 Pf・2 27
古代に寄す 2⑦
夜の思想 3⑩
日本小品集 3⑯
バスーン協奏曲 Fag・2 25
交響楽詩「明治天皇御製組曲」 混声・2⑩
短章組曲 1⑮
ヴァイオリン協奏曲第二番ニ短調 Vn・2 20
春（自作詩） 合唱・2⑦
祖国の守り（自作詩） 合唱・2⑥
チェロと木魚と管弦楽のための一章 Vc・木魚・2⑨
序曲第一番 3⑦
祭りの頃 3⑩
交響曲第二番 3 45
交響的舞曲 3⑥
狂詩曲 3⑧
小交響曲 弦 30
交響詩「芦屋乙女」 3～4 24
行列 2 12
チェロ協奏曲ニ短調 Vc・2 23
若者の歌へる歌 3⑪
古代の舞曲 4⑮
土俗的三連画 1⑪
円舞曲 Harp・2⑩
三つの楽章 2⑦
交響曲「昭和讃頌」 合唱・4 20
日本狂詩曲 3⑮
交響曲第二 3 40
小組曲ニ短調（映画「捕鯨」より） 1 20
朝日さす島（宮城道雄共作） 箏7・混声・2 25
馬子唄（国民詩曲） 2⑭
日本俚謡による嬉遊曲 1⑭
国民詩曲「機織唄による変奏曲」 2⑯
交響詩曲「砧」 2 15
交響曲第二番「雲」 2⑮
主題と変奏曲ニ短調 2 20
愛児の死（自作詩） 独・2⑨
ピアノ協奏曲第三番変イ長調 Pf・2 23
交響詩「西土」 独・合唱・2～3 38
国民詩曲 3⑮
荒野乱舞 2⑩
春 2④
交響詩「祭」 2 13
第一交響曲 2 25
演奏会用日本風舞曲 3 20
白夜 2⑪
序曲イ長調 2 18

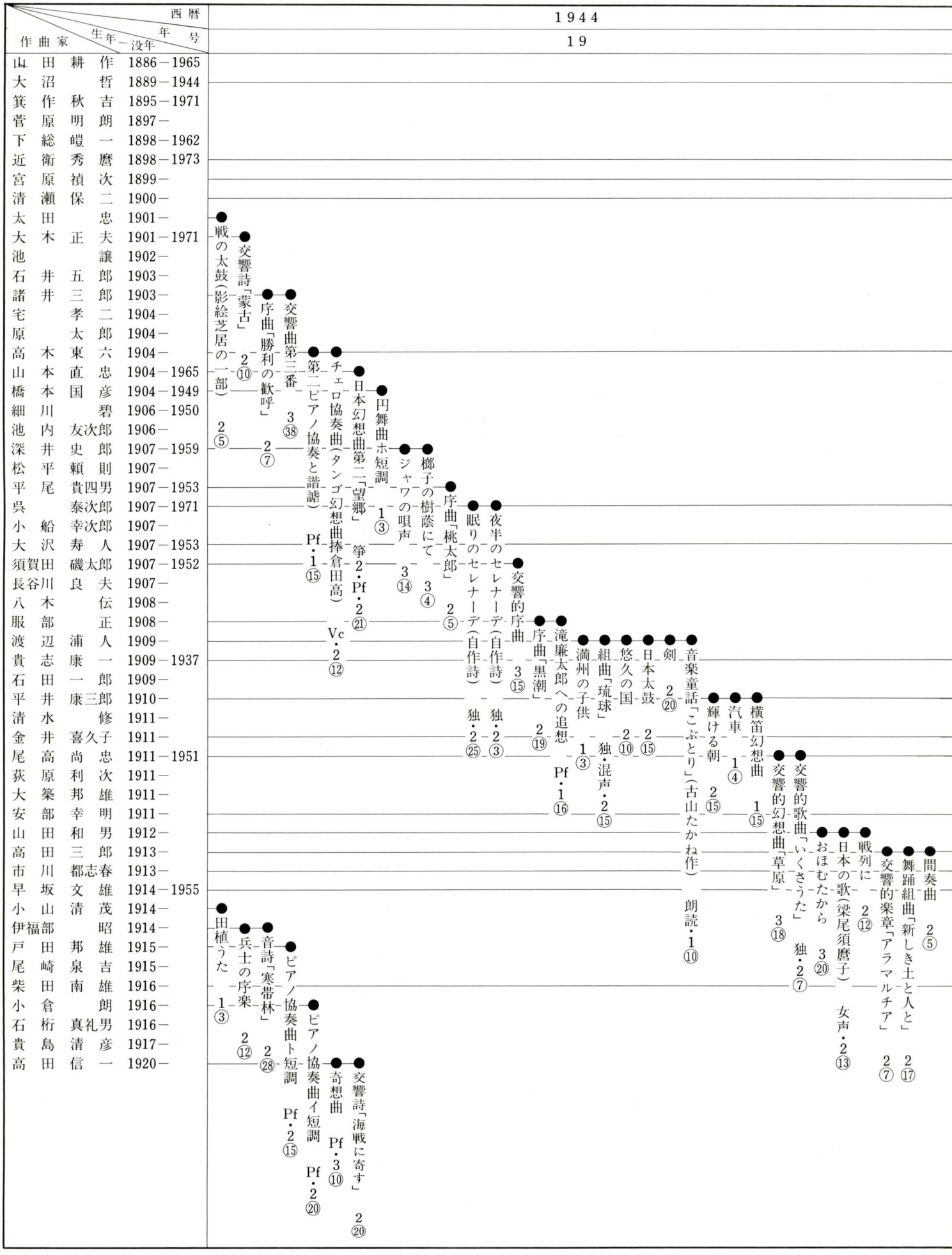


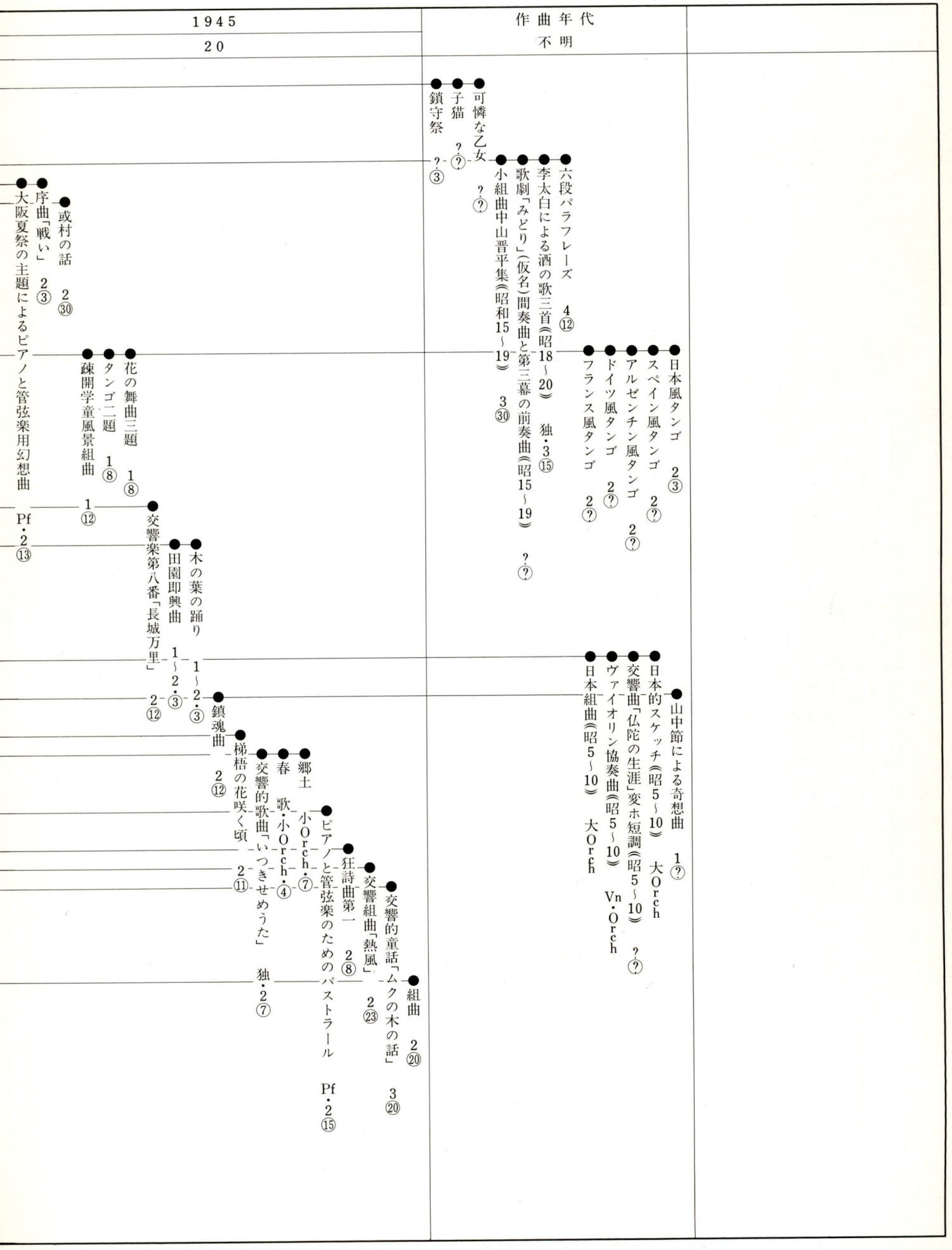
（注）曲名の下の記号は、特殊楽器、○管編成、演奏時間。


西暦
年号
作曲家
生年－没年
1940
15
1941
16
1942
17
山田耕作 1886－1965
大沼哲 1889－1944
箕作秋吉 1895－1971
菅原明朗 1897－
下総皖一 1898－1962
近衛秀麿 1898－1973
宮原禎次 1899－
清瀬保二 1900－
太田忠 1901－
大木正夫 1901－1971
池譲 1902－
石井五郎 1903－
諸井三郎 1903－
宅孝二 1904－
原太郎 1904－
高木東六 1904－
山本直忠 1904－1965
橋本国彦 1904－1949
細川碧 1906－1950
池内友次郎 1906－
深井史郎 1907－1959
松平頼則 1907－
平尾貴四男 1907－1953
呉泰次郎 1907－1971
小船幸次郎 1907－
大沢寿人 1907－1953
須賀田磯太郎 1907－1952
長谷川良夫 1907－
八木伝 1908－
服部正 1908－
渡辺浦人 1909－
貴志康一 1909－1937
石田一郎 1909－
平井康三郎 1910－
清水修 1911－
金井喜久子 1911－
尾高尚忠 1911－1951
荻原利次 1911－
大原篠邦雄 1911－
安部幸明 1911－
山田和男 1912－
高田三郎 1913－
市川都志春 1013－
早坂文雄 1914－1955
小山清茂 1914－
伊福部昭 1914－
戸田邦雄 1915－
尾崎泉吉 1915
柴田南雄 1916－
小倉朗 1916－
石桁真礼男 1916－
貴島清彦 1917－
高田信一 1920－
交響曲「大陸の黎明」（北原白秋）混声・3 ⑯
交響絵巻「桃太郎」 2 ㉚
学生行進曲 2 ④
日本古謡による交響曲第三 3 ㉗
お祭り 1 ⑩
三つの舞曲 *2 ⑫
4ダンス 小オケ・？
ダンスピラジョワーズ 2 ⑳
組曲「満州みやげ」 2 ⑧
行進曲「吾等の日章旗」 2 ④
サンクトゥス（祈聖） Pf・オケ ⑦
三つの断章（「空き時間」の音楽） 2 ④
序曲「天山南路を越えて」 2 ⑥
傷をなめる獅子（高村光太郎） 2 ⑥
前奏曲「混虫」 2 ④
前奏曲「二つのマスク」 2 ③
前奏曲「画舫」 2 ③
小管弦楽のための小奏鳴曲 1 ⑮
東洋組曲「沙漠の情景」 2 ㉒
追想（葬送曲） 3 ⑩
「姫松」幻想曲 1 ③
日本組曲 3 ㉒
交響曲第四 2 ㉚
北泰の印象 2 ⑩
交響組曲「征旅」 3 ⑳
笛の踊 Fl・Orch・④
フーグ・テスパーニュ 2 ⑳
子供の組曲 1 ⑳
白き花 独・小オケ ③
サリサリの店 独・小オケ ③
堂々たる皇軍入城（行進曲） 2 ④
おんたまを故山に迎う（三好達治） 独・2 ⑮
交響舞踊組曲「神秘集」 2 ⑨
戦死せる弟へ 朗読・2 ⑮
交響楽第七番「祖国」 2 ㉚
大行進曲「明けゆくアジア」 2 ⑤
大行進曲「体育」 2 ⑧
自然児（自作詩） 朗読・2 ⑦
組曲「春の都会から」 1 ⑳
東洋古代舞踊組曲（高麗楽）「納曽利」（双竜交遊の舞） 3 ⑭
交響詩「穂孕期」 3 ⑪
交響組曲「野人」 2 ⑯
幻想曲 Pf・1 ⑧
組曲「虫の国の音楽祭」 2 ㉚
行進曲「南進」 2 ⑤
古典舞曲 3 ⑧
幻想組曲 2 ⑳
山形民謡によるファンタジーと二重フーガ 2 ⑩
管弦楽のための前奏曲 2 ⑬
交響組曲「沢野」 3 ㉕
管弦楽のための三つの序曲 2 ⑬
主題と変奏曲 2 ⑨
ピアノと管弦楽のための協奏風交響曲 Pf・3 ㊱
交響幻想曲「伝説」 Harp・2 ⑮
交響組曲イ短調 2 ㉔
譚詩曲「五月野」 独・1 ⑨
序曲「桜」 2 ⑬



(注) 曲名の下の記号は、特殊楽器、○管編成、演奏時間。


西暦
年号
作曲家
生年－没年
1944
19
山田耕作 1886－1965
大沼哲 1889－1944
箕作秋吉 1895－1971
菅原明朗 1897－
下総皖一 1898－1962
近衛秀麿 1898－1973
宮原禎次 1899－
清瀬保二 1900－
太田忠 1901－
大木正夫 1901－1971
池譲 1902－
石井五郎 1903－
諸井三郎 1903－
宅孝二 1904－
原太郎 1904－
高木東六 1904－
山本直忠 1904－1965
橋本国彦 1904－1949
細川碧 1906－1950
池内友次郎 1906－
深井史郎 1907－1959
松平頼則 1907－
平尾貴四男 1907－1953
呉泰次郎 1907－1971
小船幸次郎 1907－
大沢寿人 1907－1953
須賀田磯太郎 1907－1952
長谷川良夫 1907－
八木伝 1908－
服部正 1908－
渡辺浦人 1909－
貴志康一 1909－1937
石田一郎 1909－
平井康三郎 1910－
清水修 1911－
金井喜久子 1911－
尾高尚忠 1911－1951
荻原利次 1911－
大築邦雄 1911－
安部幸明 1911－
山田和男 1912－
高田三郎 1913－
市川都志春 1913－
早坂文雄 1914－1955
小山清茂 1914－
伊福部昭 1914－
戸田邦雄 1915－
尾崎泉吉 1915－
柴田南雄 1916－
小倉朗 1916－
石桁真礼男 1916－
貴島清彦 1917－
高田信一 1920－
戦の太鼓（影絵芝居の一部） 2 ⑤
交響詩「蒙古」 2 ⑩
序曲「勝利の歓呼」 2 ⑦
交響曲第二番 3 ㊳
第二ピアノ協奏と諧謔 Pf・1 ⑮
チェロ協奏曲（タンゴ幻想曲 捧倉田高） Vc・2 ⑫
日本幻想曲第二「望郷」 箏2・Pf・2 ㉑
円舞曲ホ短調 1 ③
ジャワの唄声 3 ⑭
椰子の樹蔭にて 3 ④
序曲「桃太郎」 2 ⑤
眠りのセレナーデ（自作詩） 独・2 ㉕
夜半のセレナーデ（自作詩） 独・2 ③
交響的序曲 3 ⑮
序曲「黒潮」 2 ⑲
滝廉太郎への追想 Pf・1 ⑯
満州の子供 1 ③
組曲「琉球」 独・混声・2 ⑮
悠久の国 2 ⑩
日本太鼓 2 ⑮
剣 2 ⑳
音楽童話「こぶとり」（古山たかね作） 朗読・1 ⑩
輝ける朝 2 ⑮
汽車 1 ④
横笛幻想曲 1 ⑮
交響的幻想曲「草原」 3 ⑱
交響的歌曲「いくさうた」 独・2 ⑦
おほむたから 3 ⑳
日本の歌（梁尾須磨子） 女声・2 ⑬
戦列に 2 ⑫
交響的楽章「アラマルチア」 2 ⑦
舞踊組曲「新しき土と人と」 2 ⑰
間奏曲 2 ⑤
田植うた 1 ③
兵士の序楽 2 ⑫
音詩「寒帯林」 2 ㉘
ピアノ協奏曲ト短調 Pf・2 ⑮
ピアノ協奏曲イ短調 Pf・2 ⑳
奇想曲 Pf・3 ⑩
交響詩「海戦に寄す」 2 ⑳



(注) 曲名の下の記号は、特殊楽器、○管編成、演奏時間。

新響20年

芥川也寸志

新響とつきあって20年、何故そんなに長く、と真面目にきかれると困ってしまいます。別に何らかの理由なり、特別な目的があった訳ではありません。

しかし私にとって、新響が何の魅力をも持ちあわせていなかったなら、こんなに長く私たちの関係が続きはしなかったろうと思います。ただ何となくというのには、20年という歳月は長すぎます。

結局のところ、私たちはお互いのどこかに、ひっぱりあうものを持ちあわせていたのでしょう。そうとしか、いいようがありません。

世間では一般的に、アマチュアといえば下手なもの、駄目なもの、その反対にプロといえば上手なもの、いいもの、という風に思われています。ですから音楽といえば、それは大部分プロの音楽を意味し、アマチュアの音楽はそれの真似事、というように受けとられております。

つまり、プロが音楽を提供する普通のものであり、アマチュアは、特種なそれに似たもの、という訳です。これはどうも、私には納得がいきません。

アマチュアというものこそ、ごく自然に音楽を楽しみ、味わい、その楽しみやよろこびをお互いに分ちあい、提供する側であろうとされる側であろうと、それはごく当り前な存在であります。

ところがプロとなると、誰でもおいそれと簡単になれる訳ではなく、普通の人とは違う特別な技術なり、特種な才覚の持主たちなのですから、これは特別な、特種な存在です。

アマチュア普通、プロ特別、これが自然なものの見方というものでしょう。

世の中には、いろんな種類のプロがおりますが、プロという以上は、アマチュアなどの思いもよらない、眼がまわるような見事な演奏をしてくれなければ困ります。とにかくそれは、特別な内容を備えた、特別な存在なのですから。

ところが、万事経済が優先し、商業主義の吹きすさぶこの世の中で、オーケストラなどは、特別を維持出来るのは世界中で数えるほどでしかなく、あとは普通の上を維持するのに精一杯という状況です。

プロが金に弱いのは当然でしょうが、このところ、音楽ばかりか政治やスポーツの世界でも、プロの堕落した姿が眼につきます。

アマチュア政治家の方が、プロよりもうまかったり、少くともうまく見えるというのは困ってしまいます。〈特別〉は〈普通〉よりも上でないと、世の中はますますこんがらかってきます。

一方アマチュアの方も、自分たちが主体的な存在であることを忘れて、プロの真似事に明け暮れる傾向が顕著です。

アマチュアにとって、プロの技術を目標にして必死に向上しようと努めることは非常に大切ではありますが、アマチュアが、プロにはない自分たちの主体性なり、そのよさなり誇りなりを忘れてしまったら、それは本当に空しい存在でしかありません。

要するに、今の音楽世界はプロ中心に動きすぎているのです。その典型ともいうべきものは、現代音楽ではないかと思われます。

現代の多くの作曲家は、アマチュアである一般民衆とはまったく関係ないところで、仕事をしているように見えます。作り手も弾き手も、そして聞き手もみんな特別な集団であって、その部落以外の大多数の市民は、まったくそれとは何の関係もなく生活を営んでいます。

一般民衆は、現代の人間が、まさしく自分たちのために作ってくれる作品を心の中で待望しながら、それが果されぬままに、その代用品としてベートーヴェンやブラームスの、現代的クラシックで気をまぎらわせているに過ぎないのです。

こんな状態が続いて、果して音楽が本当に生きのびていかれるのか、私にははなはだ疑問といわざるを得ません。

主権在民というといやに大げさですが、ごく少数の特別人に、大多数の普通人の音楽的要求を無視したり、束縛したりする権利はないように思います。普通人は普通人として、特別人は特別人として、当り前にそれぞれの権利を主張すべきなのです。

いつも、私はプロなんですから……という枕言葉でものを喋る音楽家には、たいていろくな人はおりません。こういう場合、プロという言葉は何か都合の悪いものへの〈かくれみの〉なのです。

しかしもっと多いのは、……どうせ私たちはアマチュアですから、という結び文句を使うアマチュアたちです。この場合も、まずくて当り前、という言い逃れのために、普通であるという内容のアマチュアという言葉を、ことさら低級で悪いものであるかのように使うのです。

このような理屈にあわない、おかしな存在にならないように努めながら、新交響楽団は今日まで歩んできたつもりです。

今年は丁度、創立20周年を迎えますので、あまりプロのオーケストラがとりあげない、戦前の日本の交響作品を演奏しようと思いたちましたのも、そんな気持の一つの表われといえるかもしれません。

もとより、アマチュア・オーケストラにとっては、スコアの準備に始まり、手分けをしての写譜などの作業をふくめて、大変荷の重いプログラムではありましたが、いつものように精いっぱい練習し、精いっぱい演奏したいと熱望しております。

私たちの気持を多少なりともお伝えすることが出来ましたら、幸これに過ぎるものはございません。

Aug '76 Manila

祝

新交響楽団創立20周年記念演奏会

東京音楽アカデミー

ギター科　　作曲科

初心者からプロのレベルまでを通信指導

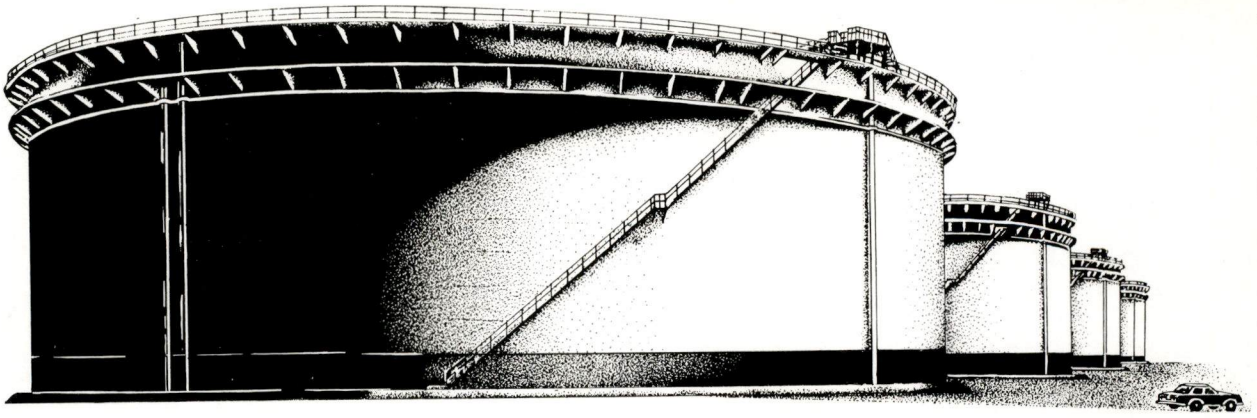
東京都渋谷区鉢山町15－5（〒150）　TEL 462－5711～3

家庭用電気製品・ミシン・販売修理

桜井ミシン電気商会

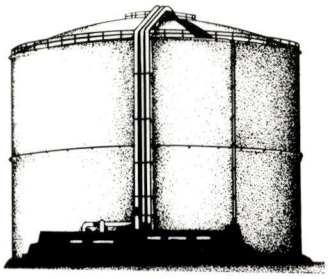
TEL 429-3761

〒154 世田谷区豪徳寺1－45－3（小田急豪徳寺駅前・世田谷線 山下駅前）



タンク

常に細心の配慮と的確な作業
ひとり一人の心にきざまれた＜**安全**＞
こそトーヨーカネツの永遠の願いです



信頼と技術で世界に伸びる

トーヨーカネツ

東京都江東区東砂8丁目・TEL. 644－1181大代表・〒136

日本の管弦楽作品創作の
豊かな源流をはじめて集成した貴重なアルバム。

《日本の管弦楽作品1914～1942》

音詩〈曼陀羅の華〉(山田耕筰)
日本組曲(尾高尚忠)
交響詩曲〈砧〉(平尾貴四男)
パロディ的な4楽章(深井史郎)
土俗的三連画(伊福部昭)

左方の舞と右方の舞(早坂文雄)
日本祭礼舞曲(清瀬保二)
芭蕉紀行集(箕作秋吉)
交響曲第2番(諸井三郎)
夜の思想(大木正夫)

昭和47年度芸術祭
大賞受賞



山岡重信／指揮
読売日本交響楽団
●VX-116～8(ステレオLP3枚組)
●¥6,600

VICTOR
RECORDS & TAPES

新響も時代とともに

戸田昌広

私は今年39才、いつのまにか子供も小学校へ通い出し人並みに父親と呼ばれる年令になってしまいました。

私がこの新響へ入団したのが17年前、22才の時ですから人生の半分近くをこのオーケストラと共に歩んだことになります、ですから音楽に対する考えはもちろん、思想も人生も大いに影響を受け毎日の生活の中で何らかの形で新響での体験が顔を出してきます。

この記念すべきプログラムの紙面を与えられた機会に新響と共に歩んだ長い年月の出来事を振り返ってみようと思います。

音楽界に限らず20年前と今日とでは社会のあらゆる面で変化があり、私たちが毎日見ている東京の街の顔でさえ全く変ってしまいました。ましてや音楽の世界をみるとすさまじい限りです。例えば都内のホールの数をみますと、当時は音楽会といえば日比谷、共立、日本青生館と今は無くなってしまったサンケイ・ホールが出来たばかりといった程度であり今日では大小合わせるとその数はおそらく10倍以上になっているでしょう。それがどこも利用者が多く一杯で、希望の日を確保するのは昔以上にむずかしくなっております。

ホールの利用状況からみてもこの様に音楽人口が増えているのですから当然私たちのようなアマチュア・オーケストラにもその影響は多いに見られます。

発足当時20数名であったメンバーが私が入った昭和35年1月には60～70名程になっていました。当時問題になっていたのは定着率が悪いのでその対策として団員の技術レベルによってオーケストラを2分割するという事でした。この結果は功を奏し4年後には3つのオーケストラと1つの吹奏楽団で総員250名が新響の組織体制の中で活動するに至ったのです。今日ここに20周年の記念音楽会を催しているのは当時第1オーケストラと呼ばれ東京労音から独立してからも新響と呼んでいるグループですが、世の音楽熱が盛んになると共に団員数も多少の出入はあるもののこの10年間は100名前後のメンバーが在籍しております

今迄で一番の若年といえば高校一年生の団員がいたことがありその年令は15、6才となると彼が生れた頃にはすでに新響に席をもって音を出していたわけでそういう若者と一緒に音楽をしている自分をみると、人間の進歩、成長なんていいかげんなものだとつくづく身につまされて考えてしまいます。そしてこれからは後からくる若い人たちにどんどん追い抜かれてしまうのですから、せめて若者の邪魔をしないよう道をあけてやるのが先輩の務めと思う今日このごろです。

オーケストラも20年を過ぎると、そろそろ団員の二世が入団してくるのではないかと思い、いつ、どこの誰が入ってくるのか楽しみです。音楽が好きな青年男女の多い団体ですので当然カップルも生れました。指折り数えてみるに私の知っているだけでも20組はあります。その楽器別の組合せは全くメチャクチャでどの楽器とどの楽器はくっつき易いというような事はないみたいです。おそらく皆さんは人物本位で選ばれたのでしょうがただ一組常識的に考えるとあべこべな取り合せにヴァイオリン(男)、コントラバス(女)というカップルが15年程前にありましたが、さすがにその後この取り合せは生れておりません。又同じ楽器どうしというのも割合少なく女性が殆んどヴァイオリンという事を考えると一体これは何を意味するのでしょう。かくいう私も団内結婚の一組でありヴァイオリンとトロンボーンというどうみても共通点の無い楽器の取り合せでした。

世間では最近モーレツ社員とかエコノミックアニマルなどという言葉が賛美されなくな

って久しくなりますが、そのせいか数年前から団員の転勤による退団が少なくなったような気がします。以前はよく名古屋へ大阪へ、四国へ海外へと出て行ってしまう仲間がいてポッカリあいた席をみてはがっかりしたものでしたがこの頃は余り動かないようです。しかしそれ以上に動かなくなったのは結婚した女性です、これは10年以上前とでははっきり違って来ております。昔は女性団員は結婚するとやめてしまうもの(楽器を持つ事さえも)と相場が決っているように思っていたものですが、団員同志の結婚はもちろん全く音楽と関係のないような人と一諸になっても、相手が理解があるのか女性が強くなって音楽を続けることを結婚の条件にしたのか知りませんがとにかく続ける人が殆んどです。更に子供が出来てもやりくりして続けて行こうと考え実行している人がふえました。

時代の流れというのでしょうか、女性の生活態度、人生観の変化でしょうか、家族の良き理解もあるのだと思いますがとにかく音楽は独身男女の特権という風潮が新響の中でさえなくなって来ました。結果的には先の転勤などによる退団者の減少と合わせて個々人の在団年数が長くなり年令層が高くなって来ており、独身者と既婚者の割合も半々になって、社会的にも家庭的にも密接に繋がった中で活動しているわけであります。

私たちのようなアマチュア・グループは余暇の利用によって成り立っているわけですから、週休2日制が定着して来て、一時のようにモーレツ社員がもてはやされなくなった今日、我々にとっては好都合な社会情勢になって来たようです。連日のように残業をして家へ帰ると10時過ぎ、たまの休日も出勤となるととても楽器を手にする時間もなくそんな気も起らないものです。かつてこのような時代の中で活躍していた先輩たちの多くが音楽から遠ざかってしまい、今となってはオーケストラのメンバーとしてステージに立った事が青春の思い出となってしまったと残念がっております。それに比べると現在は大変過しよくなりました。新響は毎土曜日が定期練習日ですが会社からあわてふためいてかけつけるという団員は少なくなり、逆に夕方になって楽器を手に子供の泣き声に背を向けて家を出るのに気が引ける、という所帯持ちもおります。

まあいずれにせよ自分自身の時間がふえてきたのですからこれからは本人の心掛け次第であり、せめて良い音楽を求めていつまでも勉強し努力する姿勢だけは持ち続けたいものです。

新響も発足以来20年にもなると実に沢山の人が席を持ってシンフォニーを奏で、そして去って行きました。その数は現団員も含めると300名を越えてしまいます、今日ステージに出ている中で創立以来のメンバーはわずか2名にすぎません。こういう中にあって指揮者は20年来芥川也寸志氏でありました。

このことは実に大変なことであり、偉大なことであり、記念すべきことであります。本日の記念演奏会を迎えて万感胸に迫るものがあるのは誰にもまして指揮者芥川也寸志氏自身であると思います。

たったの20数名でオーケストラなどといえる体裁もなく、音を出せばこの世のものとは思えないような状態であった時代から毎週の練習に、泊り込みの合宿に、そして演奏旅行では北海道、四国、九州、沖縄へ、遠くはハバロフスクからモスクワ、レーニングラードまで新響を率いてタクトを振ってこられました。氏の音楽に対する思想、音楽運動に対する理念には誰しもが強い共感を持つものと確信しますが、いつの日にか〝アマチュア音楽家たちとの日々〟とでもいうような長い年月の随想を筆にされることを希望して終りにします。

（新響前理事長）

新交響楽団演奏会年表

創立20周年を迎えるにあたり，従来の"定期演奏会"の呼称を廃し新響主体の演奏会(注)をすべて第○○回演奏会として数えることに致しましたので，その一覧を掲げます。

(注)　新響主催(他団体との共催を含む)，新響単独出演で他団体主催の公開演奏会を同一プログラムによる一連の演奏会毎に1回と数える。

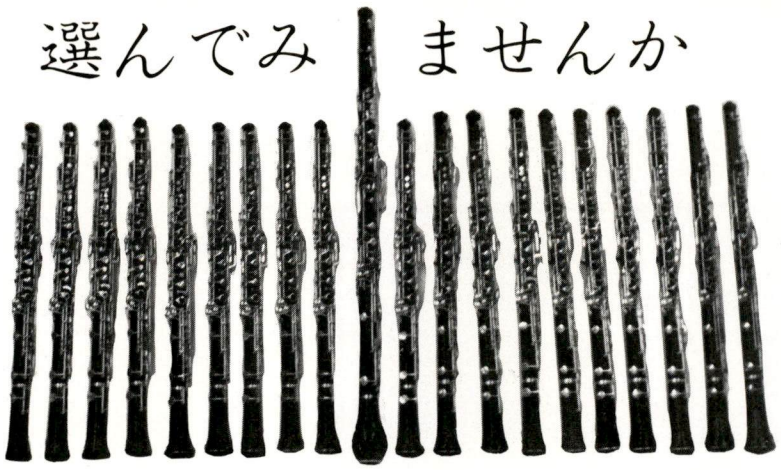
昭和 年月日	演奏会名	回数	曲目	指揮・独奏 独唱・合唱	会場	おもな出来事・年度内のその他の活動
30.						労音アンサンブル結成(2.1) 芥川也寸志氏を指揮者に迎える(11.9)
31.						新交響楽団発足(規約発効＝3.1) 正式団名決定「東京労音新交響楽団」(8.25)
32.11.21	第1回定期演奏会	1	J.シュトラウス＝ラデッキー行進曲，芸術家の生涯／グリーグ＝オーゼの死／鈴木匡編世界民謡集／ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志 合唱：東京労音会員による合唱団	日本青年館	7.27～29　合宿(鎌倉)
33.11.12	第2回定期演奏会	2	モーツァルト＝劇場支配人序曲，アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク，ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」，交響曲第41番「ジュピター」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：石浜利子	日本青年館	8.2～4　合宿(八ヶ岳山麓) 9.22　国民文化会議演奏会出演(指揮芥川也寸志於千代田公会堂，モーツアルト41番)
34.5.17	会津労音例会	3	ベートーベン＝エグモント序曲／J.シュトラウス＝ラデッキー行進曲／シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	謹教小学校 (会津若松)	5.16～18　合宿(会津若松) 5.17　小学生のための音楽教室 5.18　高校生のための音楽教室 9.　世界学生平和友好祭音楽祭 10.6　モイセーエフ舞踊団との交歓会 12.6～7　日本のうたごえ祭典
35.1.23	上田労音例会	4	モーツァルト＝劇場支配人序曲／グルック＝アウリスのイフゲニア序曲／シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	上田市公民館	1.24　中学生のための音楽教室(上田)
35.5.15	熊谷労音例会	5	ベートーベン＝交響曲第1番／J.シュトラウス＝皇帝円舞曲／イワノフ＝茜長の行列／ポンセ＝エストレリータ／シューベルト＝交響曲第8番「未完成」	指揮：芥川也寸志	富士見中学 (熊谷)	5.15　中学生のための音楽教室(熊谷) 新響第2オーケストラ誕生(新響臨時総会＝6.16) 8.21～23　合宿(山北) 11.23～24　合宿(八王子)
35.11.28	第3回定期演奏会	6	バッハ＝組曲第3番／モーツァルト＝交響曲第40番	指揮：芥川也寸志	大田区民会館	12.11・12　日本のうたごえ祭典
36.4.25	第4回定期演奏会	7	ビゼー＝アルルの女・第2組曲／メンデルスゾーン＝ヴァイオリンコンチェルト／シベリウス＝フィンランディア／ドヴォルザーク＝交響曲第9番「新世界より」	指揮：遠藤雅古 (第2オケ) 芥川也寸志 (第1オケ) 独奏：山田耕作	共立講堂	東京労音吹奏楽団誕生(1.28) 練習場所東京文化会館に移る(7.29)
36.11.2	第5回定期演奏会	8	シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ドヴォルザーク＝交響曲第9番「新世界より」／チャイコフスキー＝交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	文京公会堂	8.20～21　合宿(勝浦)・(秩父) 11.19　中学，高校生のための音楽教室 11.22　中学生のための音楽教室(熱海) 11.23　埼玉大学祭(埼玉会館)
36.11.19	秩父労音11月例会	9	同上	指揮：芥川也寸志	秩父高校体育館	11.30　3楽団合同演奏会(日本青年館)
36.11.22	熱海労音11月例会	10	同上	指揮：芥川也寸志	熱海市観光会館	12.9～10　日本のうたごえ祭典
37.4.24・26・29・30	東京労音4月例会	11	シベリウス＝フィンランディア・カレリア組曲／モーツァルト＝交響第40番／チャイコフスキー＝交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	24日文京公会堂 26日厚生年金会館 29日文京公会堂 30日日比谷公会堂	1.21　埼玉県立松松山女子高校視聴覚室 6.3　伊勢崎合唱団定期演奏会と新響公演(伊勢崎市公民館)
37.5.19・20	栃木労音5月例会	12	同上	指揮：芥川也寸志	中央公民館(栃木)	6.28　新響第2オーケストラ第2回定期演奏会(共立講堂) 8.12～14　合宿(猪苗代) 新響第3オーケストラ誕生(8.18) 新交響4楽団制発足に伴ない吹奏楽団を新交響吹奏楽団と改名(9.17) 10.28　全ソ労組文化使節団公演（歓迎出演) 12.11　日本のうたごえ祭典(都体育館)
38.3.10・16・18・19	東京労音3月例会	13	グリンカ＝「ルスランとリュドミラ」序曲／ベートーベン＝交響曲第7番／ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	10日日比谷公会堂 16日東京文化会館 18日東京文化会館 19日産経ホール	2.24　新交響4楽団第1回合同総会兼団内交流演奏会 4.10　中部うたごえ祭典(日比谷野外)
38.4.21	両毛労音4月例会	14	ウェーバー＝「魔弾の射手」序曲 J.シュトラウス＝皇帝円舞曲／シューベルト＝交響曲第8番「未完成／ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	両毛小学校(足利)	5.25　土浦労音例会(中学校講堂)
38.6.16・17	水戸労音6月例会	15	同上	指揮：芥川也寸志	水戸市民会館	7.14～16　合宿(軽井沢)
38.12.16・22・25・26・27	東京労音12月例会	16	J・S・バッハ～ストコフスキー＝トッカータとフーガニ短調／ベートーベン＝交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S嶺貞子A成田絵智子 T板橋勝B川村英司，小田清 合唱：東京労音合唱団，同会員	16日東京文化会館 22～27日厚生年金会館	
39.4.25 4.26 4.27 4.28 4.29 4.30	函館労音例会 江差労音例会 室蘭労音例会 浦河労音例会 士別労音例会 名寄労音例会	17	グリンカ＝「ルスランとリュドミラ」序曲／シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ブラームス＝交響曲第1番	指揮：芥川也寸志	HBCホール 江差高校講堂 室蘭市民会館 浦河中学講堂 士別市民会館 名寄高校講堂	2.23　新響4楽団第2回合同総会兼団内交流演奏会

昭和 年月日	演奏会名	回数	曲目	指揮・独奏 独唱・合唱	会場	おもな出来事・年度内のその他の活動
39. 5 .25	第6回定期演奏会	18	シャブリエ＝狂詩曲スペイン／ラフマニノフ＝ピアノ協奏曲第2番／ブラームス＝交響曲第1番	指揮：芥川也寸志 独奏：井内澄子	日比谷公会堂	7.5～7　合宿(軽井沢)
39.8.31	サマー・コンサート	19	J・シュトラウス＝「こうもり」序曲 皇帝円舞曲／チャイコフスキー＝白鳥の湖より(9曲)／F・レーウェ＝「マイ・フェア・レディ」より／R・ロジャース＝「回転木馬」より・「南太平洋」より	指揮：芥川也寸志 合唱：東京プリマヴォークス	東京文化会館	
39.10.19	東京労音(八王子)例会	20	J・シュトラウス＝「こうもり」序曲／シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／チャイコフスキー＝交響曲第6番「悲愴」	指揮：芥川也寸志	八王子市民会館	12.12　日本のうたごえ祭典(都体育館)
40.2.3	第7回定期演奏会	21	スメダナ＝「売られた花嫁」序曲／ハイドン＝交響曲第94番「驚愕」／チャイコフスキー＝交響曲第6番「悲愴」	指揮：芥川也寸志		2.14　レコード録音（世田ヶ谷区民会館) チャイコフスキー＝交響曲第6番「悲愴」
40.3.28	東京労音(千葉) 3月例会	22	スメタナ＝「売られた花嫁」序曲／ハイドン＝交響曲第94番「驚愕」／ベートーベン＝交響曲第3番「英雄」	指揮：芥川也寸志	新宿小学校講堂(千葉)	
40.4.10・14・18	東京労音4月例会	23	同上	指揮：芥川也寸志	10日東京文化会館 14日共立講堂 18日渋谷公会堂	
40.4.22・23・24・25・26・27・28	(愛媛，宇和島，新居浜，高知，中村，徳島，高松)労音4月例会	24	同上	指揮：芥川也寸志	22日松山女子商講堂，23日宇和島市公会堂，24日新居浜市民文化センター，25日高知中央公民館，26日中村高校講堂，27日徳島市民会館，28日高松市民会館	
40.7.24・25	浜松労音7月例会	25	ウェバー＝「魔弾の射手」序曲／シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ベートーベン＝夜響曲第6番「田園」	指揮：芥川也寸志	浜松市民会館	7.9～11　合宿(軽井沢)
40.8.23	サマー・コンサート	26	ウェーバー「魔弾の射手」序曲／ベートーベン＝交響曲第6番「田園」／ベルリオーズ＝ハンガリー行進曲／ドヴォルザーク＝スラブ舞曲第10番・第1番／ラヴェル＝ボレロ	指揮：芥川也寸志	東京文化会館	
40.9.26	日立労音9月例会	27	ワグナー＝「ローエングリン」第3幕への前奏曲／シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ベートーヴェン＝交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	日立市民会館	
40.12.6	第8回定期演奏会	28	ワグナー＝「ローエングリン」第3幕への前奏曲／ベートーベン＝交響曲第8番／ドヴォルザーク＝交響曲第9番「新世界より」	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂	10.11　新響第2回合同演奏会(日比谷公会堂)ベートヴェン＝交響曲第5番「運命」
41.4.4	第9回定期演奏会	29	ボロディン＝中央アジアの草原にて／伊福部昭＝交響譚詩／芥川也寸志＝弦楽のための三楽章／シベリウス＝交響曲第2番	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂	新響4楽団合同総会(2.20) 東京労音より独立し，新交響楽協会設立(3.15)各国の呼称は、新交響楽団，新日本交響楽団，新交響吹奏楽団に決まる
41.9.5	新響創立10周年記念ベートーベン・チクルス(第1回)	30	ベートーベン＝交響曲第1番・交響曲第2番・交響曲第3番「英雄」	指揮：芥川也寸志	虎の門ホール	7.14　日ソ合同大音楽祭(渋谷)英雄 8.1　新交響楽協会第1回合同演奏会(東京文化会館)田園
41.10.2	同上　(第2回)	31	ベートーベン＝「レオノーレ」序曲第3番・交響曲第4番・交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	虎の門ホール	8.6～8　合宿(猪苗代) 8.13　平和音楽会(日音協主催)
41.11.7	同上　(第3回)	32	ベートーベン＝「 エグモント」序曲・交響曲第6番「田園」・交響曲第7番	指揮：芥川也寸志	虎の門ホール	
41.12.19	同上　(第4回)	33	ベートーベン＝交響曲第8番・交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S常森寿子A福島久貴子 T金谷良三B常森闘志 合唱：日本合唱団・東京プリマヴォークス	虎の門ホール	
42.4.17	第14回定期演奏会	34	ベルリオーズ＝序曲ローマの謝肉祭／ハチャトリアン＝ガヤーネ第1番／レスピーギ＝リュートのための古風な舞曲とアリア第3番／ブラームス＝交響曲第4番	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂	
42.8.17	訪ソ記念特別演奏会	35	伊福部昭＝交響譚詩／カバレフスキー＝組曲「道化師」より／芥川也寸志＝弦楽のための三楽章／チャイコフスキー＝交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	東京文化会館	9.3　ＴＢＳ録画 9.17　日音協依頼録音(ＫＲＣ)
42.9.25 27 29 30 10.3	ハバロフスク演奏会 イルクーツク演奏会 モスクワ演奏会 モスクワ演奏会 レニングラード演奏会	36	グリンカ＝ルスランとリュドミラ序曲／ベルリオーズ＝ローマの謝肉祭序曲／カジラエフ＝レスギンカ／ガバレフスキー＝組曲「道化師」より／シベリウス＝フィンランディア／伊福部昭＝交響譚詩／芥川也寸志＝弦楽のための三楽章／チャイコフスキー＝交響曲第5番	指揮：芥川也寸志		9.22～10.9　訪ソ親善演奏旅行 10.21　はたらく者の音楽祭(大田体育館) 道化師／フィンランディア 10.22　日音協演奏会(共立講堂) チャイコフスキー交響曲第5番
42.12.14	第15回定期演奏会	37	コレルリ＝合奏協奏曲ハ長調Op.6－10／ドビュッシー＝小組曲／ブラームス＝交響曲第2番	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂	10.25　コンサート・コンサート録画(ＴＢＳ)チャイコ5番(東響と合同)

昭和 年月日	演奏会名	回数	曲名	指揮・独奏 独唱・合唱	会場	おもな出来事・年度内のその他の活動
43.4.8	第16回定期演奏会	38	ブラームス＝大学祝典序曲／メンデルスゾーン＝ヴァイオリン協奏曲ホ短調／ベルリオーズ＝幻想交響曲	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 徳永二男	厚生年金会館	4.21 美濃部都知事革新都政一周年の集い（文京公会堂） 5.31 日音協依頼録音（ＫＲＣ） 7.22 日ソ青年友好祭レセプション出演
43.10.14	第17回定期演奏会	39	モーツァルト特集＝魔笛序曲・交響曲第40番・モテット「おどれ、喜べ，なんじ幸なる魂よ」・交響曲第41番「ジュピター」	指揮：近衛秀麿 ソプラノ：常森寿子	虎の門ホール	7.28 第５回サークル交流会（玉川区民会館） 8.8 東響・新響合同演奏会（東京文化会館）
43.12.23〜26	第九特別演奏会	40	バッハ・ストコフスキー＝小フーガト短調／ベートーベン＝交響曲第９番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 Ｓ常森寿子Ａ子安順子 Ｔ金谷良三Ｂ蔵田裕行 合唱：合唱団“鯨”	日比谷公会堂	トッカータとフーガ／チャイコ＝ロメオとジュリエット・1812年／芥川＝弦楽のための３楽章／ローマの松 8.17〜19 合宿（猪苗代） 12.20 日音協依頼録音
44.2.2	特別演奏会（石岡）	41	C. バッハ＝シンフォニア変ロ長調／モーツァルト＝交響曲第40番／ベートーベン＝交響曲第５番「運命」	指揮：芥川也寸志	石岡市民会館	1.15 港区成人の日のつどい出演運命（日比谷公会堂） 1.19 ＴＢＳ録画（第九の４楽章，東響合唱団鯨と合同）
44.4.1	第18回定期演奏会	42	C. バッハ＝シンフォニア変ロ長調／ベートーベン＝ピアノ協奏曲第１番／ショスタコービッチ＝交響曲第５番	指揮：芥川也寸志 ピアノ：岡村梨影	東京文化会館	5.5 子供のための演奏会（水戸市）子供のうた，ラデッキー行進曲他 7.17 合唱団鯨演奏会賛助眠りの森の美女，アイーダ大行進曲他 7.27 新交響楽協会３楽団合同演奏会ミシシッピー他（東京文化会館）
44.8.4	サマーコンサート	43	J. シュトラウス＝こうもり序曲・ウィーンの森の物語／チャイコフスキー＝眠りの森の美女Op. 66a'／グロフェ＝組曲ミシシッピー／ロジャース＝南太平洋／ポーター＝カン・カン／レーウェ＝マイフェア・レディ	指揮：芥川也寸志 合唱：東京混声合唱団	東京文化会館	定期練習日変更（土→木，８月〜）
44.10.26・29・30，11.1・2・3・4	新交響楽団演奏会（那覇，佐賀，長崎，大分，小倉，都城，鹿児島）	44	J. シュトラウス＝こうもり序曲／シューベルト＝交響曲第８番「未完成」／ドヴォルザーク＝交響曲第９番「新世界より」	指揮：芥川也寸志	26日琉球大学ホール， 29日佐賀市民会館 30日長崎市民会館，１日大分市文化会館 ２日北九州市小倉市民会館	10.26〜11.4 第１回九州沖縄芸術祭参加演奏旅行
44.10.27，11.2	新交響楽団演奏会（熊本，福岡）	45	J. シュトラウス＝こうもり序曲／チャイコフスキー＝ヴァイオリン協奏曲ニ長調／ドヴォルザーク＝交響曲第９番「新世界より」	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 久保陽子	３日都城市民会館，４日鹿児島文化センター 27日熊本市民会館 ２日福岡市民会館	
44.12.21	鯨・新響特別演奏会“メサイア”	46	ヘンデル＝オラトリオ「メサイア」	指揮：芥川也寸志 Ｓ安枝雅子Ａ武藤道子 Ｔ金谷良三Ｂ松尾篤興 合唱：合唱団“鯨”	厚生年金会館	事務所移転（神田全電通会館日音協内を連絡事務所としていたが，新宿区須賀町大湊ビルの東京混声合唱団の一室を合唱団鯨と共同で借り，始めて自前の事務所となる。（10月〜）
45.4.13	第19回定期演奏会	47	リスト＝交響詩「前奏曲」／ハイドン＝交響曲第101番「時計」／ムソルグスキー・ラヴェル＝組曲「展覧会の絵」	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂	新交響楽協会解散(6.9) 7.1 合唱団鯨演奏会賛助（渋谷公会堂）ハイドン＝天地創造（指揮：芥川）
45.8.20	サマーコンサート	48	ズッペ＝軽騎兵序曲／オッフェンバッハ＝天国と地獄序曲／ニコライ＝ウィンザーの陽気な女房たち序曲／リスト＝ハンガリー狂詩曲第２番／ヘンデル＝組曲「水上の音楽」／グロフェ＝組曲「大狭谷」	指揮：芥川也寸志	東京文化会館	8.8〜10 合宿（福島県二本松） 8.17 スリーＭクラブチャリティコンサート（サマコン曲目と同じ，日比谷） 東京都アマチュアオーケストラ連盟設立加盟
45.11.4	第20回定期演奏会	49	モーツァルト＝後宮よりの逃走序曲／シューベルト＝交響曲第５番／チャイコフスキー＝交響曲第４番	指揮：外山雄三	共立講堂	(10.5)
45.12.21・23	第九特別演奏会	50	バーバー＝弦楽のためのアダージォ／ベートーベン＝交響曲第９番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 Ｓ佐野順子Ａ菊池洋子 Ｔ金谷良三Ｂ田島好一 合唱：合唱団“鯨”	共立講堂	
46.4.18・22	第21回定期演奏会	51	バッハ＝管弦楽組曲第３番／ベートーベン＝ヴァイオリン協奏曲／ブラームス＝交響曲第３番	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 徳永二男	18日千葉県文化会館 22日虎の門ホール 東京文化会館	1.15 足立区成人式祝典演奏会運命，未完成（足立区文化会館） 4.25 ブラームス３番録音（日本電子工学院ホール）
46.8.10	サマーコンサート	52	タイケ＝旧友／メンデルスゾーン＝結婚行進曲／チャイコフスキー＝くるみ割り人形から行進曲／エルガー＝威風堂々／ブリテン＝青少年のための管弦楽入門／R. コルサコフ＝交響組曲「シェーラザード」	指揮：芥川也寸志，小林研一郎（ブリテンのみ）		6.1 合唱団鯨演奏会賛助（渋谷公会堂）武満＝弦楽のためのレクイエム／フォーレ＝レクイエム／モーツァルト＝レクイエム（指揮：芥川，小林）
46.10.28	第22回定期演奏会	53	芥川也寸志＝交響管弦楽のための音楽／モーツァルト＝フルート協奏曲第２番／マーラー＝交響曲第１番「巨人」	指揮：芥川也寸志 フルート：澄川千津	厚生年金会館	8.20 スリーＭクラブサマコン（郵貯ホール）新響サマコン曲目ブリテンの代りに未完成 9.23〜26 合宿（鎌倉）
46.12.15・17	新響・鯨特別演奏会“第九”	54	バッハ・ストコフスキー＝パッサカリアとフーガハ短調／ベートーベン＝交響曲第９番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 Ｓ大川隆子Ａ秋葉京子 Ｔ金谷良三Ｂ田島好一 合唱：合唱団“鯨”	日比谷公会堂	11.7 東日本薬学生合唱連盟演奏会賛助ベートーベン第九，指揮：小林研一郎（郵貯ホール）
47.2.7	新響新春特別演奏会（総合文化社主催）	55	バッハ・ストコフスキー＝パッサカリアとフーガ／メンデルスゾーン＝ヴァイオリン協奏曲／マーラー＝交響曲第１番「巨人」	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 黒沼ユリ子	日比谷公会堂	定期練習日を土曜に変更（４月〜）
47.4.2	第23回定期演奏会	56	モーツァルト＝交響曲第36番「リンツ」／ベートーベン＝ピアノ協奏曲第３番／ベルリオーズ＝幻想交響曲	指揮：小林研一郎 ピアノ：遠藤郁子	東京文化会館	6.6 合唱団鯨演奏会賛助（日比谷）ブルックナー＝テデウム・ミサ第３番（指揮：小林研一郎） 8.23 東響・新響合同演奏会（文化大）はげ山の一夜／スラブ行進曲／展覧会の絵（指揮：小林，秋山和慶）

昭和 年月日	演奏会名	回数	曲目	指揮・独奏 独唱・合唱	会場	おもな出来事・年度内のその他の活動
47.11.12	第24回定期演奏会	57	ベルリオーズ＝「ファウストの却罰」より／モーツァルト＝2台のピアノのための協奏曲K.365／ベートーベン＝交響曲第7番	指揮：芥川也寸志 ピアノ：池場文美	東京文化会館	9.15～17　合宿(軽井沢)
47.12.15･17	新響鯨第九特別演奏会	58	バッハ・ストコフスキー＝トッカータとフーガ／ベートーベン＝交響曲第9番「合唱付」	指揮：小林研一郎 S常森寿子 A志村年子 T金谷良三 B原田茂生 合唱：合唱団"鯨"	日比谷公会堂	11.23　FM東京「おはようコンサート」録音(東京スタジオセンター)
48.3.24･25	第25回定期演奏会	59	チャイコフスキーの夕べ＝イタリア奇想曲・ヴァイオリン協奏曲・交響曲第6番「悲愴」	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン：徳永二男	24日東京文化大 25日神奈川県立	4.1　FM東京録音（東京スタジオセンタ）イタリア奇想曲／悲愴／アンダンテカンタービレ(指揮：芥川)
48.8.18	サマーコンサート	60	ベートーベン＝交響曲第6番「田園」／プロコフィエフ＝ピーターと狼／ガーシュウィン＝パリのアメリカ人	指揮：芥川也寸志 小林研一郎 語り：浪花千栄子	東京文化会館	5.27　東京六大学合唱連盟定期賛助 さまよえるオランダ人「水夫の合唱」
48.11.5	第26回定期演奏会	61	メンデルスゾーン＝交響曲第4番「イタリア」／ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」／ストラビンスキー＝舞踊組曲「火の鳥」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：小栗　豊	サンプラザホール	8.25　アマチュア音楽の祭典出演（普門館）スラブ行進曲／パリのアメリカ人他 9.14～16　合宿(軽井沢)
48.12.19･21	新響第九特別演奏会	62	ワーグナー＝トリスタンとイゾルデより「前奏曲と愛の死」／ベートーベン＝交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S常森寿子，小池容子 A秋葉京子，T金谷良三 B平野忠彦 合唱：合唱団鯨，ノイグテコール他	サンプラザホール	12.1･2　早大グリークラブ定期賛助(渋谷公会堂，厚生年金会館) グノー＝ミサソレムニス(指揮：小林) 12.25　フラウエンコール第九演奏会賛助(指揮：小林，サンプラザホール)
'9.3.31	新響とショスタコービッチ (第27回定期演奏会)	63	モーツァルト＝交響曲第35番「ハフナー」／ドビュッシー＝牧神の午後への前奏曲／ショスタコービッチ＝交響曲第5番	指揮：芥川也寸志 フルート：古田土勝市	東京文化会館	3.21～24　合宿(千葉県岩井)
49.5.17	芥川也寸志と弘中孝 (新響名曲コンサート)	64	ベルリオーズ＝ローマの謝肉祭序曲／ベートーベン＝ピアノ協奏曲第4番／ドヴォルザーク＝交響曲第8番	指揮：芥川也寸志 ピアノ：弘中孝	杉並公会堂	6.2　東京六大学混声合唱連盟定期賛助（東京文化会館）ヴェルディ＝レクイエムより(指揮：小林研一郎)
49.8.10･25	サマーコンサート	65	ハチャトリアン＝ガイーヌより第1組曲・第1組曲A／ビゼー＝カルメン第1組曲・ファランドール／チャイコフスキー＝「白鳥の湖」より	指揮：芥川也寸志 白鳥の湖おはなし： (東京)黒柳徹子 (横浜)芥川也寸志)	10日東京文化会館 25日神奈川県立音楽堂 東京文化会館	9.20～23　合宿(北軽井沢) 10.14　合唱団鯨演奏会賛助(東京文化会館)メンデルスゾーン＝クリストス／ヴェルディ＝テデウム他（指揮：中村健)
49.12.15	ペトルーシュカ (第28回定期演奏会)	66	ベートーベン＝交響曲第8番／芥川也寸志＝弦楽のための三楽章／ストラビンスキー＝舞踊組曲「ペトルーシュカ」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：渡辺達		
50.4.23	新響鯨特別演奏会	67	シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／モーツァルト＝レクイエム	指揮：芥川也寸志 S常森寿子 A志村年子 T金谷良三 B高橋大海 合唱：合唱団"鯨"	文京公会堂	5.2～5　合宿(白樺湖)
50.6.1	ストラビンスキー3部作 (第29回定期演奏会)	68	ストラビンスキー＝舞踊組曲「火の鳥」・舞踊組曲「ペトルーシュカ」舞踊組曲「春の祭典」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：渡辺達	渋谷公会堂	
50.8.9	サマーコンサート	69	J.シュトラウス＝こうもり序曲・狩・ウィーンの森の物語・トリッチトラッチポルカ／グールド＝ラテンアメリカンシンフォニエッタ／ムソルグスキー・ラヴェル＝展覧会の絵	指揮：芥川也寸志 ツィター：河野保人 吹奏楽：瑞穂青少年吹奏楽団	東京文化会館	8.17　瑞穂青少年吹奏楽団演奏会賛助(立川市民会館)こうもり・トリッチトラッチポルカ・ウィーンの森の物語／展覧会の絵
50.10.19	新響・山岡・ブルックナー (第30回定期演奏会)	70	ブラームス＝大学祝典序曲／モーツァルト＝ファゴット協奏曲／ブルックナー＝交響曲第4番「ロマンティック」	指揮：山岡重信 ファゴット：前田信吉	日比谷公会堂	10.10～12　合宿(茨城県鹿島)
50.12.8･9	第九特別演奏会	71	シベリウス＝フィンランディア／ベートーベン＝交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S太田真己子 A遠藤久江 T小林久仁夫 B阿部正芳(以上合唱団員) 合唱：中央合唱団・第九合唱団	郵便貯金ホール	
51.3.29	第31回定期演奏会	72	シャブリエ＝スペイン狂詩曲／プロコフィエフ＝キージェ中尉／シベリウス＝交響曲第2番	指揮：芥川也寸志	郵便貯金ホール	3.19～21　合宿(茨城県鹿島) 3.23　東京音楽アカデミー依頼録音 4.23　合唱団鯨演奏会賛助（文京公会堂）フォーレ＝レクイエム／シューベルト＝ミサ第6番(指揮：中村，ボルン)
51.9.3	日本の交響作品展 昭和8年～18年(第1日) (第73回演奏会)	73	平尾貴四男＝古代讃歌／箕作秋吉＝小交響曲ニ長調／大木正夫＝組曲「五つのお伽噺」／尾高尚忠＝日本組曲／早坂文雄＝古代の舞曲	指揮：芥川也寸志	東京文化会館	5.4　東京六大学混声合唱団連盟定期賛助(東京文化会館)ブルックナー＝テデウム（指揮：山岡重信)
51.10.11	日本の交響作品展 昭和8年～18年(第2日) (第74回演奏会)	74	清瀬保二＝日本祭礼舞曲／安部幸明＝小組曲／高田三郎＝山形民謡によるバラード／諸井三郎＝小交響曲変ロ調／伊福部昭＝交響譚詩	指揮：芥川也寸志	東京文化会館	5.30　浦和混声合唱団演奏会賛助（埼玉会館）フォーレ＝レクイエム(指揮：久山恵子) 5.31　東京音楽アカデミー依頼録音 事務所移転・大久保駅前オグラビル(6･5) 7.6　東京音楽アカデミー依頼録音 8.8　創立20周年記念新旧団員交歓会 8.23　東京音楽アカデミー依頼録音 8.27～29　合宿(鹿島) 9.24～26　合宿(鹿島)

オーボエ、選んでみませんか



ロレー
ソノーラ
メーニッヒ
マリゴー
ストラッサー
ショーベ
ピュヒナー

日本総代理店
AKマルカルト
リグーター
リーク
ハワーズ
ルシェルネ
(ラウビン)
ヴェッツエル

〈バスーン〉
ピュヒナー　クーパー　ソノーラ　ヒューラー
ヘッケル　ポリシー　メーニッヒ　クルスベ

☎346-1761

高級輸入楽器の店
AKM **A-Kミュージック**
新宿区西新宿1－4－11 宝ビル3F

私達の自信作　ムラマツニュースケール

The Muramatsu flute



お問合せカタログ請求　都・新宿区西新宿8-4-5 ラボセンタービル4階 〒160　村松楽器販売株式会社 PHONE03-367-6000

“弦楽器専門”

文京楽器

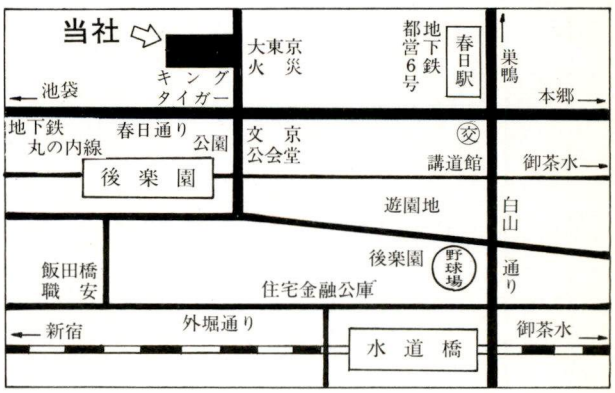
（旧チャキ弦楽器）

★直輸入

品　目●バイオリン・ビオラ・チェロ・コントラバス・弓・ケース・部品類・その他弦楽器
輸入先●イタリア・ドイツ・フランス・イギリス・アメリカ

★修理及び調整〔弦楽器全般〕

当社独自の工房では、最高の技術をもって丁寧かつ迅速なサービスに努めております。弓毛替・駒取替等お急ぎの場合はその旨お申しつけ下さい。



CHAKI **文京楽器製造株式会社**

〒112　東京都文京区小石川2丁目1番11号
TEL (814) 0974 (811) 2084
営業時間－9：00～18：00，定休日－日曜日・祝日



マスターレコーディングのために
開発された
超微粒子磁性体〔MAX〕を採用。
20kHzまでフラットなF特、
広いDレンジ…
忠実な原音再生が楽しめます。
カセットハーフもスケルトン構造
〈精密クリスタルハーフ〉採用で、
ヘッドタッチを直視できます。
★テープセレクター;
〔ノーマル〕又は〔High〕ポジション

Master
Scotch® スコッチ・カセット・テープ

住友スリーエム株式会社 3M 磁気製品営業部
本社●〒158東京都世田谷区玉川台2-33-1 TEL.03(709)8493(ダイヤルイン)/東京支店●TEL.03(403)1111(大代表)/大阪支店●TEL.06(262)1641(大代表)
名古屋支店●TEL.052(221)7611(代表)/札幌営業所●TEL.011(231)2541(代表)/仙台営業所●TEL.0222(61)2811(代表)/横浜営業所●TEL.045(481)7171(代表)
広島営業所●TEL.0822(21)9311(代表)/福岡営業所●TEL.092(521)2861(代表)/沖縄営業所●TEL.0988(77)6661(代表)

LEA POCKET SCORES 定価各巻￥500

BACH【バッハ協会版】 註文番号
平均率クラフィール曲集 第1巻・第2巻…… 1a/1b
イギリス組曲，フランス組曲……9
ゴールドベルク変奏曲，イタリア協奏曲，
2声及び3声インヴェンション…… 21
パルティータ，フランス序曲…… 22
クラフィール曲集 第VI巻…… 45
クラフィール曲集 第VII巻…… 46
クラフィール曲集 第VIII巻…… 68
ハープシコード協奏曲…… 69
オルガン曲集……34～38
ヴァイオリン・ソナタ，チェロ組曲……2
ヴァイオリン・クラフィール・ソナタ……4
ガンバ・クラフィール・ソナタ，
フリュート・クラフィール・ソナタ…… 10
音楽の捧げ物・トリオ・ソナタ…… 26
フーガの技法…… 73
歌曲集・アリア集…… 74
四声のコーラル集…… 75

BEETHOVEN【ブライトコップフ原典版】
ピアノ・ソナタ集…… 11～15
ピアノ変奏曲集…… 30
ピアノ小品集…… 65
ヴァイオリン・ソナタ集……3a/3b
チェロ・ソナタ集…… 18

BRAHMS【原典版】
ピアノ・ソナタ集：OP.1,2,5…… 57
ピアノ変奏曲集 OP.9,21,24,35,56b……19
ピアノ小品集 OP.76－119……66
ヴァイオリン・ソナタ集……6
チェロ・ソナタ，クラリネット・ソナタ……7

CHOPIN【原典版】
前奏曲，ピアノ・ソナタ，幻想曲……5
エチュード，OP.10,25,遺作……44
バラード，スケルツォ…… 67
ノクターン，ロンド…… 93
円舞曲，即興曲…… 94
マズルカ No.1～41……119
マズルカ No.42～56，ポロネーズ1～12 ……120

DEBUSSY 註文番号
ピアノ曲集Ⅰ：アラベスク，ベルガマスク組曲，
ピアノの為に，版画，よろこびの島……161
ピアノ曲集Ⅱ：マスク，イマージュ，子供の領分，
ハイドン礼賛，レントよりおそく……162
ピアノ曲集Ⅲ：前奏曲第Ⅰ・Ⅱ集……163

HANDEL【クリザンデル版】
クラフィール曲集：組曲 他…… 86
ソナタ OP.1…… 70
合奏協奏曲 OP.3…… 54
合奏協奏曲 OP.6……71/72
オルガン協奏曲集……125/126
王宮の花火の音楽，水上の音楽……139
オーケストラ二重協奏曲……140
聖チェチリア日の頌詩他……164
四つの戴冠式賛歌他……165

MENDELSSOHN【原典版】
弦楽四重奏曲集……149/150
弦楽五重奏曲，八重奏曲……148
無言歌集…… 47
ピアノ作品集Ⅱ巻……167
オルガン曲集…… 48

MOZART【ブライトコップフ原典版】
ピアノ・ソナタ……39/40
ピアノ変奏曲集…… 89
ヴァイオリン・ソナタ集……16a.b.c
ヴァイオリン・ビオラ二重奏曲……171

SCHUBERT【ブライトコップフ原典版】
ピアノ・ソナタ集…… 41～43
ピアノ小品集…… 29, 58
ヴァイオリン作品集…… 17
八重奏曲……156
弦楽四重奏曲集…… 51～53
ピアノ三重奏曲 OP.99,100,1 ……110
五重奏曲 鱒 他OP.163 ……111
歌曲集：Ⅰ～Ⅶ…… 23,24,112～116

東京都文京区本郷2－26－11：Tel. 813－6751㈹
アカデミア・ミュージック株式会社

YAMAHA CONCERT GRAND PIANO

私たちはCFを「ピアノの芸術品」であると自信をもっています。そのことは、世界の檜舞台でヤマハを選ぶピアニストが、年ごとに増えていることでも証明されています。「ピアノは音の輝きだけではだめだ。弾く人の嬉しい心、悲しい心まで表現できるものでなければならない。CFには心の感度がある。」鬼才スビャトスラフ・リヒテルのこの言葉が、CFのすべてをあらわしています。

YAMAHA

日本楽器製造株式会社

ピアノ演奏には、ご近所に心をくばりましょう。
ヤマハでは、パンフレット
「防音のお話」「音のエチケット」を用意しております。
ご希望の方はお申し出下さい。

CF

繊細な「心の感度」をうたいあげます。
ときには激しく、またあるときは静かに。

